長野市の埋蔵文化財第116集

浅川扇状地遺跡群

平林東沖遺跡

ひら ばやし ひがし おき

古牧中部土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2007年3月

長野市教育委員会

序

遺跡や遺物などの土地に埋蔵されている文化財は、郷土の成り立ちや文化を正しく理解する上で欠くことのできない貴重な遺産です。まさに「土地に刻まれた歴史」といわれる所以がここにあります。現在長野市内では700箇所以上の遺跡が周知されていますが、こうした埋蔵文化財は、そのままの状態で地中に保存し、後世に伝えていくことが理想的な在り方です。しかし、現代社会においては、開発事業の影で破壊される運命をたどる埋蔵文化財が生じてしまうことも致し方ない現実となっております。そこで次善の策として発掘調査を行い、記録として後世に伝えていく手段がとられています。

ここに長野市の埋蔵文化財116集として刊行いたします本書は、古牧中部土地区画整理事業に伴い、平成13年から３ヵ年にわたって実施してまいりました埋蔵文化財発掘調査の報告書であります。

調査では、古墳時代前期から平安時代にかけての遺構・遺物を確認することができました。

また、事業予定地周辺ではこれまでに埋蔵文化財の包蔵が希薄で遺跡のみられない地域と考えられておりましたが、今回の発掘調査によって新たな埋蔵文化財の確認がなされた事は、地域史解明の一助としてお役立ていただければこの上ない喜びであります。

最後になりましたが、発掘調査から報告書刊行にいたるまで公私にわたり多大なご援助・ご指導を賜りました関係諸機関ならびに各位に心からお礼申し上げます。

平成19年３月

長野市教育委員会
教育長　立岩睦秀

例　　言

1　本書は、古牧中部土地区画整理事業に伴い、記録保存を目的として平成13～15年度に実施した発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、長野市都市開発部区画整理課の依頼により、長野市教育委員会埋蔵文化財センターが直轄事業として実施した。

3　発掘調査地は長野市大字平林字東沖301他に位置する。

4　遺構図中の座標・標高は、日本水準原点の座標および平面直角座標系Ⅷ座標値（日本測地形2000）に基づく。

5　遺構の略号は、ＳＢ：竪穴住居、ＳＫ：土坑、ＳＤ：溝、ＳＸ：性格不明遺構、を表す。

・遺構図の縮尺は基本的には１：80としているが、微細図などはこの限りではなく適宜縮尺を明示した。なお、遺構図中のスクリーントーンは、　が炭化面を、　が焼土面を、　が硬化面を表し、破線は貼床を表す。

6　実測遺物は、土器が口縁または底径が全体の1/2以上のものを基本的に選んだが、一部についてはこの限りではない。また、青磁については破片であったため写真のみとした。

・遺物図は、土器の縮尺は１：４で、その他の遺物については適宜明示した。

・土器実測図中、土師器は土器断面を白抜きに、須恵器は黒塗り、灰釉・緑釉陶器はスクリーントーン（灰釉　、緑釉　）にて示した。また、黒色処理されたものは土器内面にスクリーントーンにて示した。

・遺物一覧表では、調査区ごとに遺構一覧表にある遺構と、特に土器の出土量と遺物の実測個体数があるものを個別に、他は遺構ごとにまとめて出土土器量及び実測数を提示した。

・土器遺物写真の番号は実測図番号と対応する。

7　人骨・獣骨の自然科学分析をパリノ・サーヴェイ株式会社に委託した（第Ⅴ章）。

8　遺物写真撮影・土器観察表作成は小出が行った。

9　出土遺物および調査の諸記録は、長野市教育委員会埋蔵文化財センターにて保管している。

・「平林東沖遺跡」の略記号は「ＡＨＢ－ＨＯ」とし、13年度調査分をＡＨＢ－ＨＯ、14年度調査分をＡＨＢ－ＨＯ－Ｂ区、15年度調査分をＡＨＢ－ＨＯ－Ｃ区とした。

目　　次

序
例　言

第Ⅰ章　調査経過……1
　第１節　調査に至る経過……1
　第２節　発掘調査の経過……4
　第３節　調査体制……7

第Ⅱ章　調査地周辺の環境……9
　第１節　遺跡の立地……9
　第２節　周辺の考古学的環境……10

第Ⅲ章　調査概要……12
　第１節　試掘調査……12
　第２節　発掘調査概要……13

第Ⅳ章　調査の成果……22
　第１節　遺構……22
　　１　竪穴住居……22
　　２　土坑……37
　　３　掘立柱建物……41
　　４　井戸……43
　　５　溝……46
　　６　性格不明遺構……47
　　＜表１　遺構一覧表＞……48
　第２節　遺物……50
　　１　土器……50
　　＜表２　土器観察表＞……72
　　２　土製品……85
　　３　石製品……86
　　４　鉄・銅製品……87
　　５　木・骨製品……89
　　＜表３　遺物一覧表＞……90

第Ⅴ章　平林東沖遺跡の自然科学分析……93

第Ⅵ章　結語 ……105
・遺物写真

挿　図　目　次

図１	調査範囲および調査区位置図	1
図２	調査地および周辺地図	2
図３	調査地周辺字境図	3
図４	遺跡群範囲および長野市防災基本図 地形分類図	9
図５	調査地周辺の遺跡位置図	11
図６	試掘坑位置図	12
図７	試掘坑柱状図	12
図８	調査区位置図	14
図９	Ａ区遺構分布図	15 16
図１０	Ｂ区遺構分布図	17
図１１	Ｃ区遺構分布図	18
図１２	Ｃ区 - ２遺構分布図	21
図１３	ＳＢ１実測図	22
図１４	ＳＢ２・４実測図	23
図１５	ＳＢ５実測図	24
図１６	ＳＢ６実測図	24
図１７	ＳＢ７実測図	25
図１８	ＳＢ８実測図	25
図１９	ＳＢ９実測図	26
図２０	ＳＢ10実測図	27
図２１	ＳＢ12実測図	28
図２２	ＳＢ15実測図	29
図２３	ＳＢ16実測図	30
図２４	ＳＢ16カマド周辺実測図	31
図２５	ＳＢ18実測図	31
図２６	ＳＢ19実測図	32
図２７	ＳＢ19カマド実測図	33
図２８	ＳＢ19カマド土器下面実測図	33
図２９	ＳＢ21実測図	34
図３０	ＳＢ22実測図	34
図３１	ＳＢ23実測図	35
図３２	ＳＢ11実測図	35
図３３	ＳＢ17実測図	36
図３４	ＳＢ20実測図	36
図３５	ＳＫ93実測図	37
図３６	ＳＫ95実測図	38
図３７	ＳＫ８実測図	39
図３８	ＳＫ７実測図	40
図３９	ウシ埋納土坑実測図	40
図４０	ＳＴ１実測図	41
図４１	ＳＴ２実測図	42
図４２	ＳＴ３実測図	42
図４３	井戸実測図	43
図４４	井戸実測図	44
図４５	ＳＤ34実測図	46
図４６	ＳＸ７実測図	47
図４７	土器実測図	52
図４８	土器実測図	53
図４９	土器実測図	54
図５０	土器実測図	55
図５１	土器実測図	56
図５２	土器実測図	57
図５３	土器実測図	58
図５４	土器実測図	59
図５５	土器実測図	60
図５６	土器実測図	61
図５７	土器実測図	62
図５８	土器実測図	63
図５９	土器実測図	64
図６０	土器実測図	65
図６１	土器実測図	66
図６２	土器実測図	67
図６３	土器実測図	68
図６４	土器実測図	69
図６５	土器実測図	70
図６６	土器実測図	71
図６７	土製品実測図	85
図６８	石製品実測図	86
図６９	石製品実測図	87
図７０	鉄製品実測図	88
図７１	青銅製蝶番実測図	88
図７２	銅銭拓影	89
図７３	木・骨製品実測図	89

第Ⅰ章　調査経過

第１節　調査に至る経過

遺跡の位置する平林地区は、旧長野市街地に接する。現在は国道406号線（平林街道）などが通り、近年市街地化が進んでいる地域である。この中で長野市都市計画事業として古牧中部土地区画整理事業が具体化し、開発事業が行われることとなった。

事業予定地の周辺には同時点で遺跡の所在確認はなかったが、平成12年11月に埋蔵文化財試掘調査を行ったところ、予定地の一部に埋蔵文化財包蔵の確認がされたため、事業着手以前に記録保存を前提とした発掘調査を実施する必要がある旨を調査依頼者である長野市都市開発部区画整理課に伝えた。

平成13年４月24、25日に、再度試掘確認調査を実施した結果をふまえ、４月27日に都市開発部区画整理課との間で、埋文保護協議を行い、埋蔵文化財包蔵が予測される範囲約5,000㎡について記録保存を前提とした発掘調査の実施を行うことに合意し、７月17日より発掘調査に着手した。

平成14年度は、４月８日付で都市整備部区画整理課による発掘依頼調査依頼書を受け、事業面積3,000㎡のうち2,100㎡以上を調査して、記録保存を図ることとし、５月30日より発掘調査に着手した。

平成15年度は、２月24日付で埋蔵文化財発掘調査依頼を受け、４月17日付文化財保護法第57条の３に基づく土木工事等のための通知を受け、４月24、25日に事業地において予備調査を行い、約1,500㎡について調査による記録保存を図るものとし、５月６日より調査に着手した。

図１　調査範囲および調査区位置図（Ｓ＝１：2,000）

調査地周辺航空写真（平成２年６月撮影、㈱ジャステック）

図２　調査地および周辺地図（S＝１：10,000）

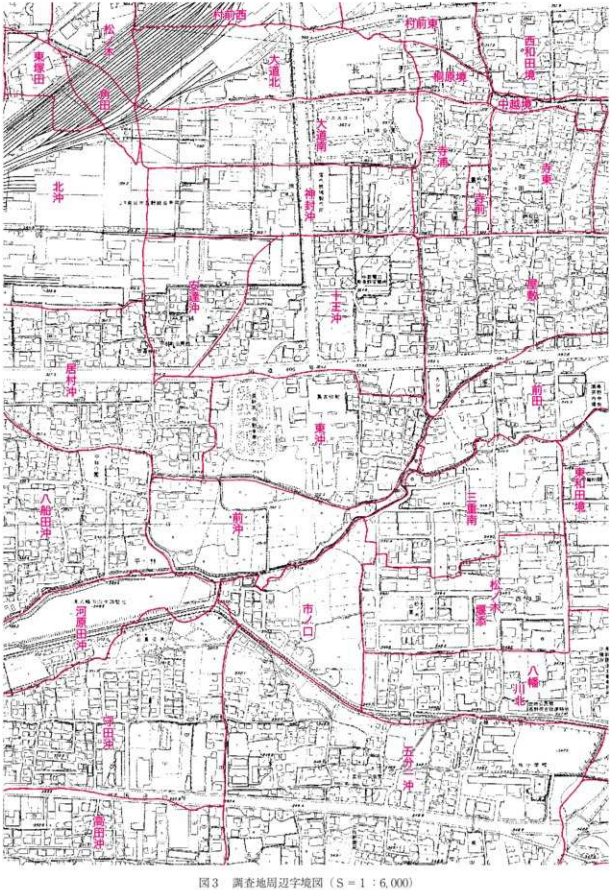


図3　調査地周辺字境図（S＝1：6,000）

第２節　発掘調査の経過

平成13年度

７月17日～　重機による表土剥ぎ作業。

７月23日～　発掘作業員参加による調査開始。排水溝掘削、遺構検出作業。

７月25日　職場体験学習（川中島中学校・生徒１名）

７月30日　遺構検出・掘り下げ作業。体験学習（長野商業高校、考古学クラブ・教師２名・生徒５名）

７月31日～　遺構掘り下げ作業。遺構写真撮影。

８月７日　　雨天、現場作業中止。土器洗い。

８月８日　　遺構検出・掘り下げ作業。職場体験学習（山陽中学校・生徒５名）

８月９日　長野市立博物館・親子発掘体験。

８月20日　第１回遺構測量委託。

９月17日　遺構掘り下げ。排水作業。第２回遺構測量委託。

９月25日～　遺構掘り下げ。

10月１日　　雨天、現場作業中止。土器洗い。

10月２日～　調査区南側、遺構検出作業。遺構掘り下げ。

10月４日　遺構掘り下げ、写真撮影。

10月10日　雨天、現場作業中止。土器洗い。

10月11日　排水作業。調査区東側遺構検出。

10月12日　調査区南側遺構、掘り下げ・写真撮影。

10月15日　第３回遺構測量委託。調査区西側、遺構検出作業。

10月16日　調査区南側遺構検出。遺構写真撮影。

10月17日　雨天、現場作業中止。重機による排土搬出作業。

10月18日　排水作業。調査区北東部、全体写真撮影。

10月19日　調査区南、重機による表土剥ぎ作業。遺構検出、掘り下げ作業。

10月24日～　排水作業。遺構検出、掘り下げ作業。写真撮影。

11月１日　現場における作業を終了する。

作業日数40日。

A区表土除去後（南東から）

A区調査風景（北から）

A区調査風景（南東から）

A区調査風景（ＳＢ16周辺）

平成14年度

５月30日～　調査区西半部、重機による表土剥ぎ作業。

６月３日　　発掘作業員参加による調査開始。調査区周囲に側溝を掘る。

６月５日～　遺構検出、掘り下げ作業。

６月17日～　重機による調査区東側の検出。平行して土器洗い。

６月19日　遺構の検出、掘り下げ。

６月20日　第１回遺構測量委託。

６月21日　遺構掘り下げ、写真撮影。

６月24日　遺構写真。調査区全景写真撮影。

６月25日　土器洗い。

６月27日～　調査区東半部、表土剥ぎのため重機による排土の切り返し作業。平行して土器洗い。

７月８日　遺構の検出、掘り下げ作業。

７月18日　遺構の個別図面、写真撮影。

７月19日　第２回遺構測量委託。土器洗い。

７月23日　遺構写真、調査区全景写真撮影。

７月24日　第３回遺構測量委託。

７月25日～　土器洗い。

７月31日　現場における作業を終了する。

作業日数37日。

平成15年度

５月６日～　調査区東側より、重機による表土剥ぎ作業。

５月12日　発掘作業員参加による調査開始。表土剥ぎ作業を平行して行う。

５月13日～　遺構検出、掘り下げ作業。

５月19日　新しく表土剥ぎを行った部分の検出作業。

５月20日　遺構掘り下げ作業。

５月21日　遺構掘り下げ作業。調査区全景写真撮影。

５月27日　第１回遺構測量委託。

５月29日　調査区全景写真撮影。土器洗い。

５月30日　第２回遺構測量委託。土器洗い。

６月２日　調査区北側、重機による表土剥ぎ作業。土器洗い。

６月３日～　重機掘削済みの所から遺構検出作業

B区調査風景（北から）

B区調査風景（北東から）

C区表土除去（南から）

C区調査風景（南から）

6月11日　調査区北側、遺構掘り下げ。
6月12日　調査区全景写真撮影。
6月13日　遺構掘り下げ。第３回遺構測量委託。
6月17日　雨天、現場作業中止。土器洗い。
6月18日　調査区西側、遺構掘り下げ作業。
6月23日　第４回遺構測量委託。調査区航空写真撮影。
6月24日　調査区南東、検出のためグリットを設定。掘り下げ。
6月25日　雨天、現場作業中止。土器洗い。
6月26日　グリット部、遺構検出作業。
7月１日～　遺構掘り下げ作業。
7月７日　　雨天、現場作業中止。土器洗い。
7月８日　　遺構掘り下げ。調査区北側、重機による表土剥ぎ作業。
7月９日　グリット部、全景写真撮影。北側、遺構検出作業。
7月11日　調査区北側、東半を写真撮影。
7月15日　調査区北側、全景写真。第５回遺構測量委託。
7月16日　土器洗い。
7月18日　現場における作業を終了する。
　作業日数52日。

　現場作業終了後、年度ごとに整理作業を、平成18年度より報告書作成作業を行い本書の刊行に至る。

C区ＳＸ７掘り下げ（北から）

C区掘り下げ（南西から）

C区遺構測量

第３節　調査体制

長野市域においての埋蔵文化財の保護措置については、学術調査及び史跡等の保護保存に係わる学術調査を長野市教育委員会文化財課が担当し、各種開発行為に伴う緊急調査は埋蔵文化財センターの直轄事業として実施している。

（平成13～15年度）

調査主体者　長野市教育委員会　　教育長　久保　健（～平成13年度）
　　教育長　立岩睦秀（平成14年度～）

統括責任者　長野市埋蔵文化財センター　　所　長　磯野久夫
　　所長補佐　矢口忠良

庶務担当　係　長　北村実寛（～平成13年度）
　　山岸恒雄（平成14年度～）
　　職　員　青木厚子（～平成14年度）
　　吉村久江（平成15年度～）
　　事務員　塚田容子

調査担当　係　長　青木和明（主任調査員、平成15年度～）
　　千野　浩（主任調査員、～平成14年度）
　　主　査　飯島哲也
　　主　事　風間栄一
　　小林和子
　　専門員　中殿章子（～平成13年度）　　専門員　清水竜太
　　山田美弥子（～平成13年度）　　内山　梢（～平成14年度）
　　西沢真弓（～平成14年度）　　山下大輔（平成14年～）
　　小野由美子（～平成15年、14年度調査員）　　遠藤恵実子（平成14年度～、調査員）
　　堀内健次（平成15年度調査員）　　長瀬　出（平成15年度～）
　　藤田隆之（～平成13年度、調査員）　　山野井智子（平成15年度～）
　　宮川明美　　藤原崇志（平成15年度）

発掘作業員　青柳千代子　井原　武　太田幸子　太田周男　太田正紀　金子千絵　北沢節子　木下智恵子
　　栗林忠義　小山聖子　佐藤綾子　佐藤育三　佐藤ふ志子　鈴木美紀　園原邦博　中島昭二郎
　　永原恵美香　樋沢加代子　増田　隆　宮島郁美　宮島久美子　向山純子　山上富美子　山田寿恵

遺構測量委託　株式会社写真測図研究所

（平成18年度）

調査主体者　長野市教育委員会　　教育長　立岩睦秀

総括管理者			文化財課長	北村真一郎
統括責任者	局主幹兼埋蔵文化財センター		所　長	矢口忠良
庶務担当	係　長	宮澤和雄		
	職　員	吉村久江	事務員	塚田容子
調査担当	係　長	青木和明		
	主　査	風間栄一		
		小林和子		
	主　事	宿野隆史		
	専門員	遠藤恵実子	専門員	森田利枝
		長瀬　出		山岸千晃
		山野井智子		小池勝典
		石丸敦史		柴田洋孝
		小出泰弘		

整理調査員　青木善子　池田寛子　多羅沢美恵子　鳥羽徳子　中殿章子　武藤信子　矢口栄子

整理作業員　倉島敬子　小泉ひろ美　清水さゆり　関崎文子　富田景子　西尾千枝　三好明子　村松正子

自然科学分析（骨・骨製品）業務委託　パリノ・サーヴェイ株式会社

第Ⅱ章　調査地周辺の環境

第１節　遺跡の立地

平林東沖遺跡の位置する古牧地区は長野市街地の東方から続く平坦地である。裾花川の支流が裾花川扇状地の傾斜方向へと流れ、南縁では扇状地末端の低い崖が続いている。千曲川・犀川の氾濫原に一部が掛かり、第四紀新層の沖積土が覆う肥沃な土地である。また、周辺は現在のところ遺跡の確認がほとんどされていない場所である。

本遺跡は浅川扇状地遺跡群の南端部、裾花扇状地遺跡群とは南に接する場所に位置する。浅川扇状地は飯綱山を水源とする浅川によって東南方向を主軸とした扇状地を形成し、扇状地内には数多くの遺跡が存在している。

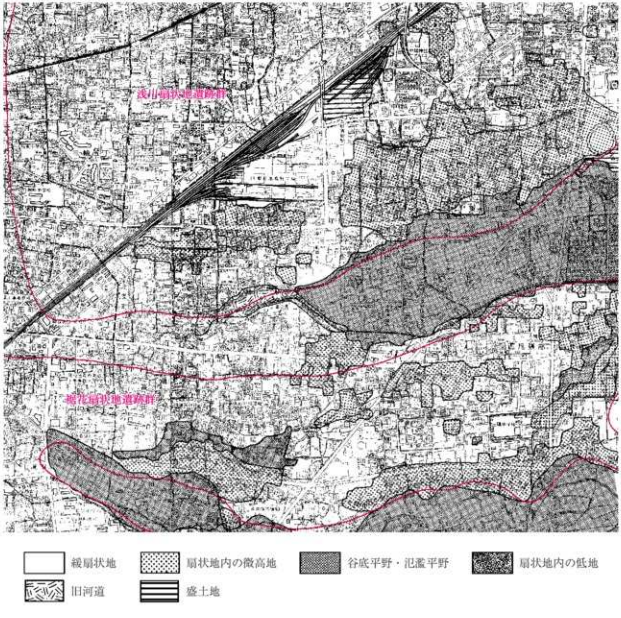


図４　遺跡群範囲および長野市防災基本図地形分類図（一部改変）（Ｓ＝１：20,000）

一方、裾花扇状地遺跡群は旭山北麓の里島付近を扇頂部源流としており、本遺跡の位置する平林では、善光寺下から北尾張部にかけて浅川扇状地との複合扇状地を形成している。

浅川扇状地遺跡群は多くは緩扇状地であるが、平林東沖遺跡付近では微高地に、裾花扇状地遺跡群と接する場所では裾合谷となり、砂・シルト層の分布による軟弱な地盤となっている。裾花扇状地も本遺跡付近では、微高地及び谷底平野が多く浅川扇状地の様な安定した扇状地をなしていない様子が見られる。

第２節　周辺の考古学的環境

平林東沖遺跡は、浅川扇状地遺跡群に属するが、浅川扇状地遺跡群での調査の行われた遺跡とは離れた位置にあり、隣接する裾花扇状地遺跡群との間に位置しているため、ここでは平林東沖遺跡の南北にある浅川・裾花の両遺跡群の遺跡について示した。（図５）

浅川扇状地遺跡群

現在までに多くの遺跡が確認されている。明確な居住域がみられ始めるのは縄文時代からであり、四ッ屋遺跡（11）、吉田古屋敷遺跡（７）では後期の敷石住居が確認されている。また、弥生時代中期･後期では遺跡の数とその規模から、遺跡群内でも中心的な時期であったことがうかがわれる。ここでは三輪遺跡（２～５）や吉田古屋敷遺跡（７～９）で当該期の住居と埋葬遺構が検出されている。以後の集落の規模の中心は古墳時代中期・後期となるが、古墳時代前期では住居址のほかに四ッ屋遺跡、吉田古屋敷遺跡（９）で周溝を伴う墳墓が確認されている。弥生時代・古墳時代においては墓域としての性格もみられ、集落は縄文時代後期から平安時代まで継続して営まれている。

裾花扇状地遺跡群

居住域は弥生時代中期から平安時代にかけてのものが確認されている。この内、西方遺跡（13・14）では古墳時代前期・古墳時代後期から平安時代にかけての住居址が検出され、寺村遺跡（16）では平安時代の住居址が検出されており、10世紀中頃から11世紀前半まで連続する集落遺跡である。また、南向塚古墳（17）は盆地平野部に位置する前方後円墳とされる古墳である。墳形を含め詳細については明らかではないが、築造などに関しては当該期の周辺集落を含めての検討が待たれる。

このほかには、現在では主に土塁の確認がなされるのみであるが、押鐘城跡（１）、平林城跡（12）、中沢城跡（15）と３箇所の城館がみられる。

以上のように特に浅川扇状地内では多く遺跡が確認されているが、これらの遺跡が存在するのは標高360mまでの扇状地形を呈する場所である。その中で平林遺跡はそれよりも南に外れた位置にある。この辺りは旧裾花川の河道にあたり、等高線からみられる地形も北側の扇状地地形とはやや異なった様相となっており遺跡の数は少なくなる。遺跡が位置する一帯は条里的な地割が比較的残る場所であり、上高田の元水田地（南向塚古墳周辺）にて行われた裾花川乱時代の河床層でのプラント・オパール分析では、平安時代以前には稲作が行われていた可能性が示されている。

＜参考文献＞　長野市誌編纂委員会　1997 『長野市誌』 第１巻　自然編、第８巻　旧市町村史編
長野市教育委員会　1993『三輪遺跡（４）』、1996『吉田四ツ屋遺跡・三輪遺跡（６）・棗河原遺跡』、1997『吉田古屋敷遺跡』、2004『西方遺跡（２）』

1：押鐘城跡、2～5：三輪遺跡、6桐原宮西遺跡、7～9：吉田古屋敷遺跡、10：新幹線地点、11：四ッ屋遺跡
12：平林城跡、13～14：西方遺跡、15：中沢城跡、16：寺村遺跡、17：南向塚古墳　（星印：平林東沖遺跡）

図5　調査地周辺の遺跡位置図（等高線：大正15年測量、昭和27年修正図を一部改変）（S＝1：15,000）

第Ⅲ章　調査概要

第１節　試掘調査

調査に先立ち、工事予定地とその周辺において確認調査を行った。計10地点にて行い（図６）、Ａ～Ｈ地点を平成12年度に、Ｉ、Ｊ地点を平成15年度にそれぞれ行ったものである。

その結果、Ａ、Ｂ地点では現地表面下20～30㎝で遺物包含層が確認された。Ｃ、Ｄ地点では包含層末端部と考えられる堆積がみられた。Ｅ～Ｇ地点での確認はなく、Ｈ地点では、現地表下35㎝で裾花川による堆積と考えられる混砂礫層に達した。

ここでの地山は明黄褐色の砂礫層であるが、包含層がみられない場所では現地表（畑、水田耕作土）直下から暗青灰色の粘質層となっている。Ｉ、Ｊ地点では、現地表下１ｍ以上に渡り

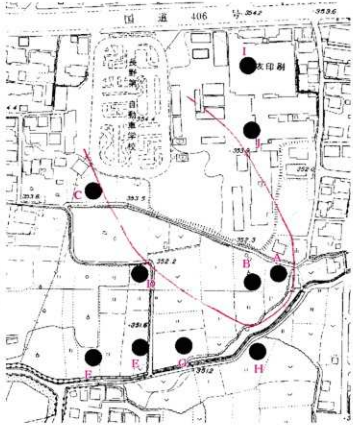


図６　試掘坑位置図

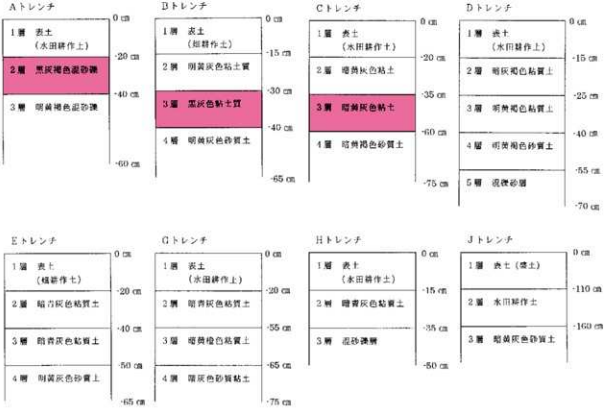


図７　試掘坑柱状図

旧建物に伴う盛土であるが、その下の水田耕作土下から暗黄灰色砂質層となり、遺物包含層端部であることが確認された。以上を合わせ、遺跡は図６に示す範囲に展開するものと考えられる。

第２節　発掘調査概要

調査は、葛友印刷社屋移転地（Ａ区）、高田若槻線道部分及び調整池（Ｂ区）、葛友印刷社屋跡地及び高田若槻線道路部分（Ｃ区）とに分けて行った。調査面積は、Ａ区2,030㎡、Ｂ区1,770㎡、Ｃ区1,490㎡で総面積は5,290㎡である。Ｃ区では、現地表面からの深さがあったため、調査区は南側と東側で予定の範囲よりも２ｍ内側へ法面を取っての設定を行った。

遺構は、古墳時代前期から平安時代までのものを主とする。竪穴住居は古墳中期・後期のものが多く、当該期を中心とした集落域である。また、住居域としては平安時代を下限とするが、この時期には前時代に比べ急激に減少する様子がみられる。なお、平安時代以降では井戸や土坑、溝の他、土壙墓や牛の埋納がみられ、住居域以外での土地利用がなされるようになったことがうかがわれる。

調査地航空写真（平成15年度）

図８　調査区位置図（S＝1：800）

図9　A区遺構分布図（S＝1：300）

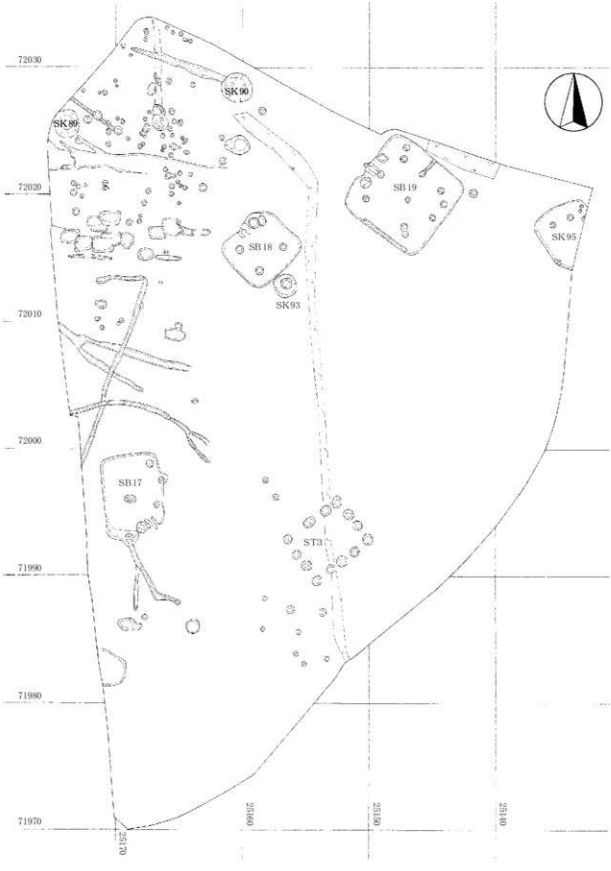


図10　B区遺構分布図（S＝1：300）

図11　C区遺構分布図（S＝1：300）

A区の概要

現地表面から遺構面までの深さは60cmを測る。検出面は黄褐色を呈する。検出面はレキを含む箇所がみられ、さらに数カ所において北西方向からの河川の影響とみられるレキ層が確認できる。

遺構は調査区内に密に存在する。主なものには竪穴住居・掘立柱建物・土坑墓・井戸がある。住居が古墳時代中期・後期を、その他の掘立柱建物や土坑が古墳時代前期から平安までを中心としている。

住居址は13軒（古墳時代中期７軒、後期５軒、平安時代１軒）が検出された。主に調査区の東側に比較的密に位置しており、切り合い関係がみられるものもある。内部施設は炉を持つものとカマドが造られるものとがみられる。出土土器の様子からも、同時期に渡り継続して集落が展開していたことがうかがわれる。

柱跡では堀立柱建物が２軒分確認された。

土坑墓は２基。成人と幼児のもので、隣接した位置にあり、主軸・頭位をほぼ同じくする。検出の状況は成人のものが足部を溝に切られる他は良好である。この内幼児のものには、副葬品として鹿角の加工品がある。

土坑は60基以上を数える。円形のものの内、井戸址として確認されたのが８基ある。この内、側面や底部に石材や板材を残すものもあるが、いずれも１段又は２段の素堀りのものである。なお、この場所は湧水点が高く、場所によっては検出面より１m弱の深さから水が湧き始める。このため、他の用途を明確にしえなかった土坑についても、井戸である可能性が考えられる。

また、ウシの下顎骨が入れられた長方形の土坑がある。他の部位はみられないが、１個の下顎骨を左右半分に割り並べたもので、意図的に埋納したものである。この他、検出面や覆土中または溝址からも獣骨や人骨の一部がみられた。

住居域の中で、長方形の土坑中から台付甕や器台などが出土している。同時期の遺物があるものが２基、切り合う形で掘られているものである（ＳＢ15、ＳＫ71）。

遺物は全体的に、覆土中からの土器の出土が多いと

Ａ区検出（南東から）

Ａ区ＳＢ15、ＳＫ71周辺（西から）

Ａ区ＳＢ１～４周辺（西から）

Ａ区調査区全景（北西から）

言える。また、緑釉・灰釉陶器、硯がみられる。土坑内からの出土もあるが、多くは検出面からの出土であり、土器の量から見ても意図的に廃棄、埋納がされた様子はみられない。

B区の概要

現地表面から遺構検出面までの深さは45cmを測る。

遺構は古墳時代前期・後期、平安時代に渡り、住居・掘立柱建物・井戸・土坑が検出された。

検出面は、明黄褐色土であるが、調査区東側で河川の影響とみられる赤混じりの黒褐色土が帯状に拡がっている。なお、平安時代の遺構は、このレキ層よりも西側に位置し、古墳時代の遺構の内、後世にこの層の影響を受けたことが考えられるものがみられることから、調査区内の河川は古墳時代以降に流れ込んだものであることがうかがわれる。

竪穴住居は3軒（古墳時代後期2軒、平安時代1軒）が検出された。この内古墳時代のものでは、カマド内に土器や支脚石・天井石を残し、主柱穴には礎石を残す程の良好な検出状態のものがある。

古墳時代前期の遺構では、円形の土坑の中に土器が多数入れられており、その形態から、井戸址の可能性が考えられる。また、中に器台などの小型土器が置かれた方形に浅く掘り込まれた土坑もあり、遺構の祭祀的性格も考えられる。

この他に、調査区西側に、長さ1m程の長方形の土坑が8基ほど切り合った状態で検出された。覆土中からは僅かではあるが坏（平安）の出土のある土坑もある。遺構の位置は密接し、遺構の検出状態は底面で湧水がみられる他は良好であるが、遺構の性格を明らかにするには至らなかった。

この他、平安時代の遺構では、素堀の井戸が2基検出された。なお、調査区南東側から南は遺構の検出がなく、本遺跡の南東側の端部であることが確認された。

C区の概要

現地表面からの深さは盛土が多い所で170cm、その下の旧表土からは30cmの深さがある。遺構は古墳時代

B区表土除去（南東から）

B区平安時代土坑列（西から）

B区調査区西半全景（北から）

B区調査区東半全景（北西から）

中期から奈良・平安時代のものを中心としている。

竪穴住居は全部で４軒（古墳時代中期３軒、平安時代１軒）あり、この内古墳時代中期のものは、後世の河川の影響を受けているため、検出面からの掘り込みが浅く、レキを多く含んだ状態での検出であった。

その他はほとんどが溝や土坑・柱穴である。柱穴の中には柱痕を残すものがみられたが、掘立柱建物の検出はなかった。また、溝では覆土中から完形に近い土器や、金メッキが施された蝶番、ウマの下顎骨が出土している。

調査区南西側で特に遺構の検出がはっきりとしなかったため、12×11mの範囲を設定し、一段深く掘り下げた（Ｃ区－２）。その結果、検出面から約15cm掘り下げた時点で明確な検出に至った（図12）。

ここでは、上面でははっきりとしなかった井戸（ＳＫ132）と溝（ＳＤ34）の下面を、また土器のみられる土坑と広い範囲での不整形の掘り込みが検出された（ＳＸ１～６）。掘り込みの底面には凹凸があり、ＳＸ３・４以外では、ＳＸ５→ＳＸ１→ＳＸ２→ＳＸ６の順での切り合いがみられる。このうちＳＸ６では、底部に完形の土器が置かれた様子がみられ、意図的に埋納したことがうかがわれる。覆土中からは土器・獣骨・人骨の一部が出土した。

この調査区では、西側で古墳時代の住居域の端となることがみられ、以降の時期には主に住居域以外の土地利用がなされるようになったことがうかがわれる。

図12　Ｃ区－２遺構分布図（Ｓ＝１：250）

Ｃ区調査区全景（南から）

Ｃ区調査区全景（東側）（北東から）

Ｃ区調査区全景（西側）（南東から）

Ｃ区－２全景（南から）

第Ⅳ章　調査の成果

第１節　遺構

本調査で検出した遺構は、竪穴住居21軒、掘立柱建物３軒、土坑墓２基、井戸18基、溝45条、他に土坑、柱穴、性格不明遺構である。時期は古墳時代前期～平安時代までのものを主としている。竪穴住居は古墳時代中・後期を中心とし、土坑、溝は古墳時代前期～平安以降まで連続してみられる。

遺構番号は、ピットのみが土器の検出があったものについて調査区ごとに、その他の遺構はＡ区～Ｃ区まで通して遺構番号を付けた。この内、本章では竪穴住居（検出がわずかであったＳＢ３を除く）・掘立柱建物・土坑墓・井戸は検出した遺構の全てを、その他の溝・土坑・性格不明遺構については、特筆事項のあるものの図版・写真を掲載した。なお、基本的な遺構の規模・主軸などの情報は本文中では省き、表１遺構一覧表にまとめた。

１　竪穴住居

古墳時代

ＳＢ１

検出は北側の一部を柱穴によって切られるのみで住居の全体が把握できた。床面は全体に軟弱で、特に東側は地山のレキ層を掘り抜いており不明瞭である。柱穴はＰ１～Ｐ４の方形配列の４本が想定される。なお、Ｐ５は出入口施設に関連する掘り込みの可能性がある。

地床炉は奥壁側のほぼ中央に位置する。約16cmの掘り込みに炭化物及び焼土の堆積が確認された。

なお、Ｐ３からは壺の頸部が逆位の状態で出土している。

ＳＢ１（南から）

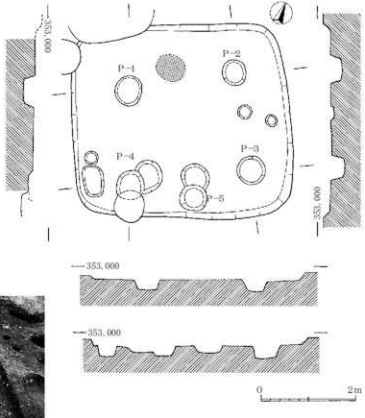


図13　ＳＢ１実測図（Ｓ＝１：80）

ＳＢ２・４

ＳＢ２はＳＢ４によって切られるため、一部のみの検出である。住居に伴う施設では柱穴としてＰ１が想定される。ＳＢ４は南側を土坑によって切られるが、その他の検出は良好である。床面は軟弱で不明瞭である。柱穴は住居内にいくつかみられるが、いずれも後世のものと判断され、本住居に伴うと考えられるものは不明である。

カマドは奥壁中央に位置する。袖部は右側が一部残り、燃焼部には硬化面がみられる。カマド中央には脚の端部を欠損した高坏が逆位に置かれており支脚と想定される。なお、出土土器は、ＳＢ２・４が混じる他、ＳＢ３出土の土器とも接合することが判明した。

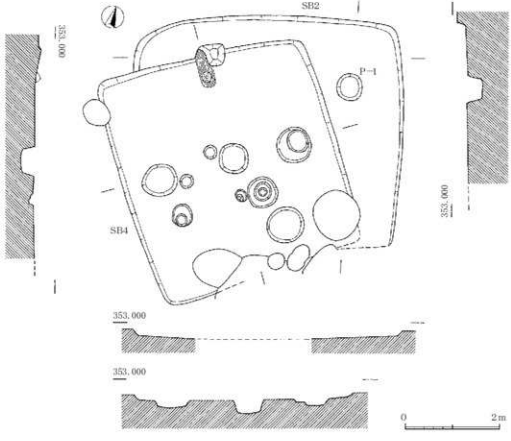


図14　ＳＢ２・４実測図（Ｓ＝１：80）

ＳＢ２・４（南から）

ＳＢ４カマド

ＳＢ５

検出面からの掘り込みは浅く、北側壁では、一部壁面の確認がない程である。床面はレキを含みやや軟弱である。

住居に伴う柱穴はＰ１～Ｐ６があり、この内、位置からＰ１～Ｐ３が主柱穴と考えられるが明確ではない。なお、Ｐ６は出入口施設と考えられる。壁周溝は南側壁にみられる。

住居中央奥壁寄りには、焼土面がみられる。炉の可能性もあったが、住居に伴う土器が長胴甕・甑であることからむしろカマドの存在が示唆される。

また、地床炉の西側上方にも狭い範囲ではあるが、炭化物の広がりがみられる。周辺からの遺物の出土はみられず、性格については不明である。

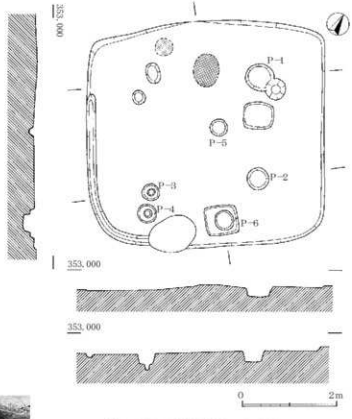
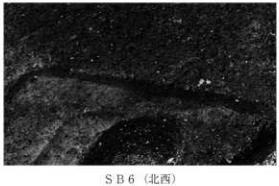


図15　ＳＢ５実測図（Ｓ＝１：80）

ＳＢ５（南東から）



ＳＢ６（北西）

ＳＢ６

南東側をＳＢ７に切られ、東側は調査区外にかかる。

床面は明瞭だが、軟弱である。主柱穴は不明である。住居に伴う施設はみられないが、北壁中央では比較的集中して土器が出土している。

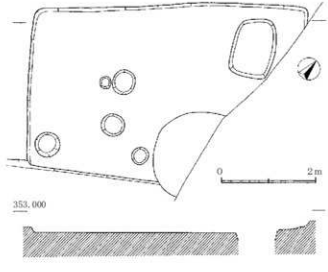


図16　ＳＢ６実測図（Ｓ＝１：80）

ＳＢ７

北側でＳＢ６を切り、東半は調査区外となっているため、全体の半分程の検出である。

床面は全体に軟弱で不明瞭である。主柱穴はＰ１～Ｐ３で４本の方形配列が想定される。住居址西壁および南壁際に壁周溝がみられる。炉・カマド施設の確認はない。土器はＰ１周辺の覆土より完形の坏が比較的まとまって出土している。

ＳＢ７（南東から）

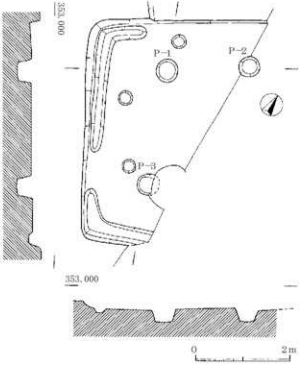


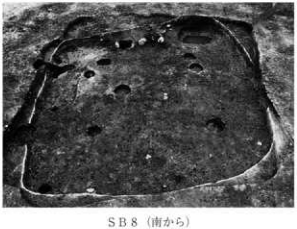
図17　ＳＢ７実測図（Ｓ＝１：80）

ＳＢ８

遺構の検出状況は良好であるが、床面は全体的に不明瞭で軟弱である。

主柱穴にはＰ１～Ｐ４の４本の方形配列が考えられるが、それぞれの掘り込みは比較的浅い。

カマドは奥壁中央に位置する。袖部の先端に河原石を置く粘土構築のもので、燃焼部の上面からは、土師器甕と坏が出土している。また、中央には支脚の河原石がそのまま残されている。



ＳＢ８（南から）

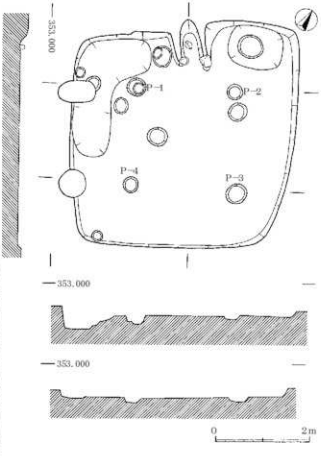


図18　ＳＢ８実測図（Ｓ＝１：80）

ＳＢ８カマド検出時

ＳＢ８カマド

ＳＢ９

ＳＢ５を一部切る。床面は地山を掘り抜いたもので、全体に軟弱で不明瞭である。主柱穴は位置からＰ１～Ｐ４が考えられるが、Ｐ４以外は掘り込みが浅く決定するには至らない。また、Ｐ５は出入口施設に伴う掘り込みの可能性がある。

カマドは奥壁中央付近に位置する。両袖で、燃焼部の上面からは土器が固まって出土している。

ＳＢ９カマド

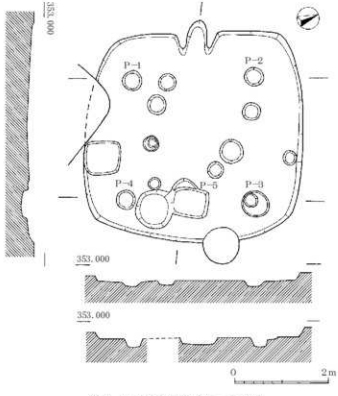


図19　ＳＢ９実測図（Ｓ＝１：80）

ＳＢ９（東から）

ＳＢ10

遺構の検出状態は良好で、住居の全体が確認できる。床面は南東側で硬化面がみられるものの、西側でレキ層がみられるなど全体的に軟弱な状態である。主柱穴はＰ１～Ｐ４の方形配列である。いずれも柱根がみられるが、湧水のため正確な底面の確認には至らなかった。

Ｐ５・６は２本１対の出入り口施設に関する柱穴と考えられる。また、カマド前面にも２本１対をなす柱穴（Ｐ９・10）があり、住居に伴う施設としての可能性が考えられる。

南西以外の壁面では壁周溝がみられ、この内、Ｐ４、Ｐ６からは、壁面に向かって間仕切溝がみられる。

住居南東側にはベッド状遺構がみられる。２ｍ×１ｍの規模で、住居床面から20cmの高さがあり、主柱穴Ｐ３と遺構の北側に位置するＰ７との間に間仕切り溝がある。

カマドは奥壁の中央に位置する。両袖カマドで、袖部は拳大の河原石を使用した石芯粘土製のものである。燃焼部には支脚として土師器の甕が逆位に設置されている。

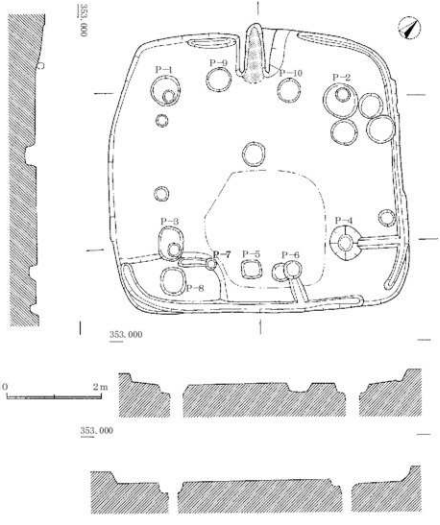


図20　ＳＢ10実測図（Ｓ＝１：80）

ＳＢ10（南東から）

ＳＢ10カマド

A区北側住居周辺（北西から）

ＳＢ12

遺構は多くが調査区外にかかっており、全体の1/3程の検出となった。床面は明瞭であり、住居中央にのみ広く硬化面がみられる。

周溝は全周している。主柱穴はＰ１、２があり、西側、南側に向かってそれぞれ間仕切り溝がある。

カマドは北壁中央に位置する。排水溝によって破壊されているが、構築材とみられる石と土器、炭化面がみられる。

ＳＢ12（西から）

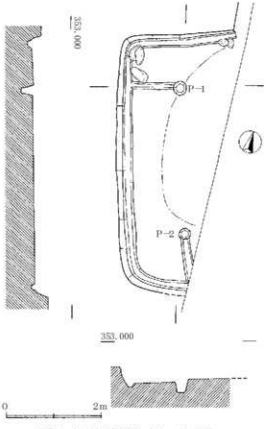


図21　ＳＢ12実測図（Ｓ＝１：80）

ＳＢ15

遺構の北側を一部溝によってきられる他は良好な状態である。床面はしまりがないが、レキをほとんど含まず明瞭である。

遺構に伴う柱穴の検出はなかったが、東壁よりには浅く円形に掘り込まれた中に焼土・炭化物がある掘り込みが位置する。焼土の周辺には石が置かれ、出土土器は器台や坏などの古墳時代前期のものである。

ＳＢ15（東から）

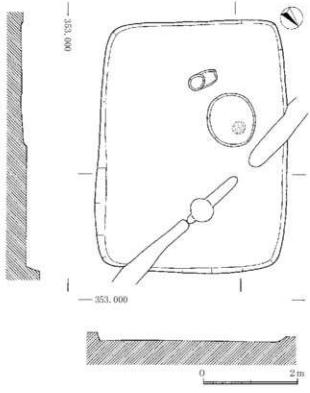


図22　ＳＢ15実測図（Ｓ＝１：80）

ＳＢ16

遺構は東側を一部土坑によって切られる他は良好な状態である。

壁周溝は北壁で一部途切れるが、他はほぼ全体に掘られている。主柱穴はＰ１～Ｐ４の方形配列がみられる。この内、Ｐ４には柱材が遺存していた。

住居の北側と南側を中心に覆土中から、壁面から中央に向かう方向で炭化材が検出された。長さは40cm程で住居に伴う部材と考えられ、焼失住居の可能性が考慮される。

ＳＢ16土器、炭化材検出状況（東から）

カマドは奥壁中央に位置する。両袖に石材を置いたもので、燃焼部上面には完形の土師器甕などがあり、正面には天井石を残す。このカマドを中心とした北側では特に土器の検出が多くみられた。坏や甕など器種は多様でほとんどが完形であった。周囲にある炭化材とはレベルをほぼ同じにしており土器と炭化材は住居内に意図的に置かれたものと考えられる。また覆土中からは、ミニチュア土器が出土しており住居の廃棄行為が行われたことがうかがわれる。

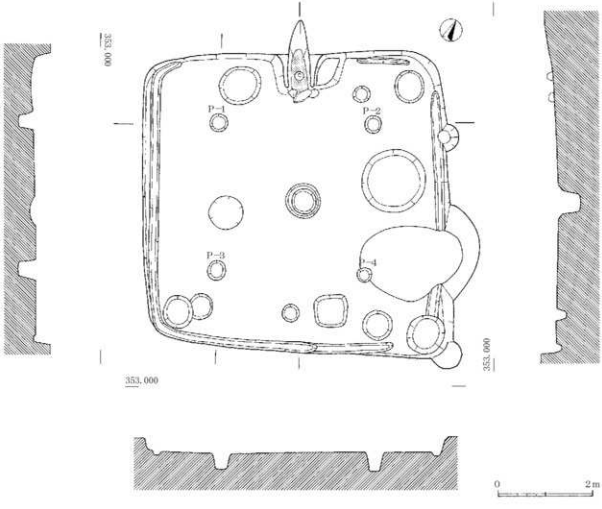


図23　ＳＢ16実測図（Ｓ＝１：80）

ＳＢ16（東から）

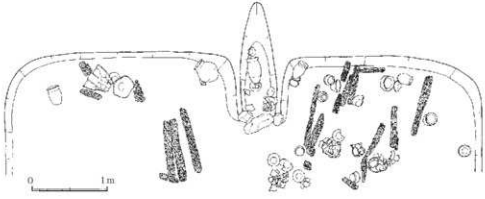


図24　ＳＢ16カマド周辺実測図（Ｓ＝１：40）

ＳＢ16カマド

ＳＢ16カマド周辺

ＳＢ18

遺構は覆土中からレキが多く、床面は大変軟弱な状態である。検出面からの掘り込みは深い所で10cm弱、北側では３cm以下と浅い。

主柱穴はＰ１～Ｐ４の方形配列が考えられる。カマドは奥壁中央に位置し、粘土構築による袖の一部と石材の抜き取り痕と焼土面がみられるのみである。

ＳＢ18（南西から）

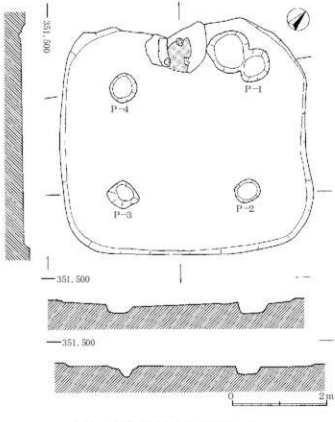


図25　ＳＢ18実測図（Ｓ＝１：80）

ＳＢ19

遺構は切り合いなどがみられず良好な状態での検出である。床面は貼床がみられないものの硬く、緻密である。

住居に伴う柱穴はＰ１～Ｐ７があり、Ｐ１～Ｐ４が主柱穴、Ｐ５、６が出入口施設に伴うものと考えられる。この内Ｐ3，4には礎石が残っていた。壁周溝は南西側に一部みられ、Ｐ７から壁面には間仕切り溝がある。また、カマドの左右に掘り込みがあり、周囲からの土器の出土も多く、何らかの施設であることが推測される。

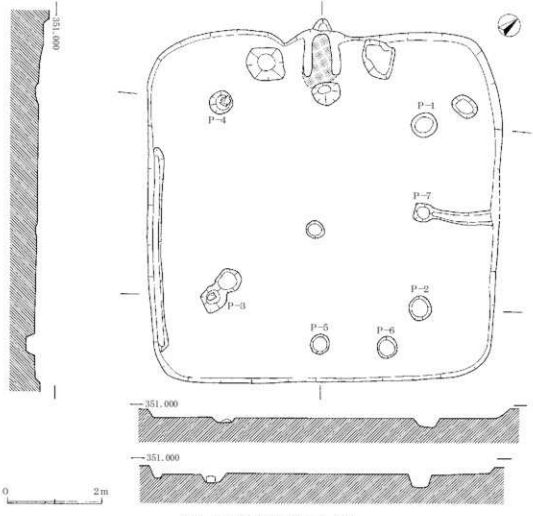


図26　ＳＢ19実測図（Ｓ＝１：80）

ＳＢ19（南東から）

・ＳＢ19　カマド

カマドは住居奥壁の中央に位置する。天井石、袖部、内部の土器が残る良好な状態である。

袖部石材は正面に20cm大の石が置かれ、以後は10cm大の石を２段に積んだものである。カマド中央には甕が横位で３個体分が置かれ、その下からは高さ10cmの石に土師器坏を被せた支脚がある。燃焼部に焼土が、前面には硬化面がみられる。

カマド右側の掘り込みからも炭化物と土器があり、カマドに関連した施設が推測される。

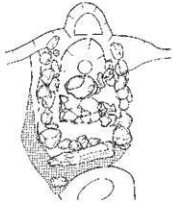


図27　ＳＢ19カマド
実測図（Ｓ＝１：30）

図28　ＳＢ19カマド
土器下面実測図
（Ｓ＝１：30）

ＳＢ19カマド

ＳＢ19土器、石材上部取り外し後

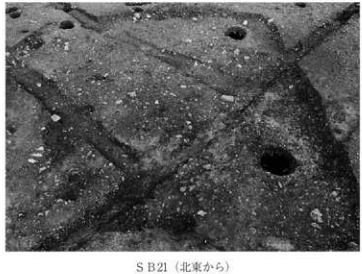
ＳＢ21

調査区の設定により、遺構の東側2/3を先に、後から残り西側の調査を行った。遺構は重機による表土除去の時点から土器の出土がみられはじめた状態で、全体の規模を把握することはできたものの、検出面からの掘り込みは５cmと特に北側では明確な壁面の確認には至らなかった。

住居は中央を２条の溝とトレンチによって切られている。

床面は覆土中からレキを多く含んでおり、覆土との色調の違いから判断したもので、不明瞭な状態である。

住居に伴うと考えられる柱穴にはＰ１～Ｐ３がある。位置から主柱穴と推測されるが、Ｐ２からは割られた状態の甕１個体分が出土し、Ｐ３では焼けた板状の石が入っていた。特にＰ３については、炉施設としての可能性が考えられるものである。



ＳＢ21（北東から）

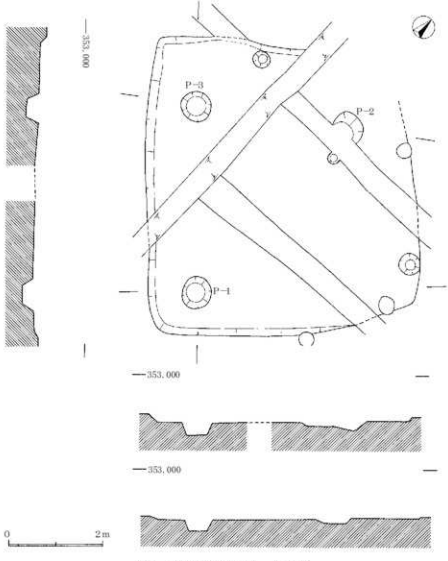


図29　ＳＢ21実測図（Ｓ＝１：80）

ＳＢ22

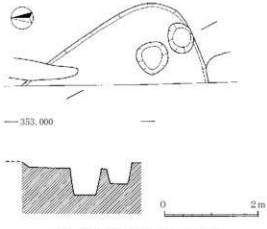
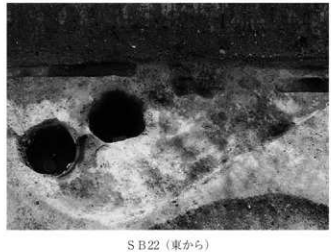


図30　ＳＢ22実測図（Ｓ＝１：80）



ＳＢ22（東から）

ＳＢ23

西側が一部調査区外にかかる。遺構は南側に行くにしたがい検出がなくなったため、全体の半分程となった。検出面からの掘り込みは一番深い南側で８cm、床面はレキを含み軟弱である。また、住居北東寄りには炭化面の拡がりと炭化材が少量みられた。

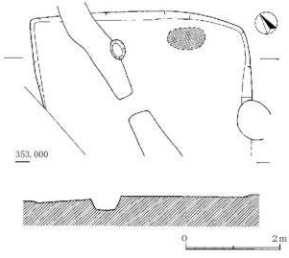


図31　ＳＢ23実測図（Ｓ＝１：80）

ＳＢ23（南西から）

平安時代

ＳＢ11

遺構のほぼ中央を土坑によって切られ、北側が調査区外にかかっての検出である。壁面の明確な検出は僅かで、カマドの検出はなく、覆土中の土器より遺構の時期を決定したものである。

Ｐ１が主柱穴として考えられ、住居北西側、中央よりのやや奥まった位置に、半分のみの検出ではあるが、炭化物がみられる。

ＳＢ11（南東から）

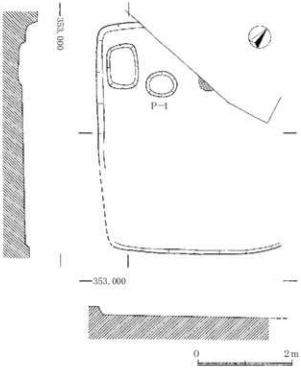


図32　ＳＢ11実測図（Ｓ＝１：80）

ＳＢ17

平面形はややゆがんだ長方形を呈する。床面はレキを含み不明瞭である。

住居に伴う柱穴はＰ１～Ｐ３があり、この内Ｐ１・２が主柱穴の可能性が考えられるが、住居西側での柱穴の検出はなかった。

カマドは左隅に位置する。炭化面と石材の抜き取り痕と浮いた状態の石がみられるのみである。

ＳＢ17（北から）

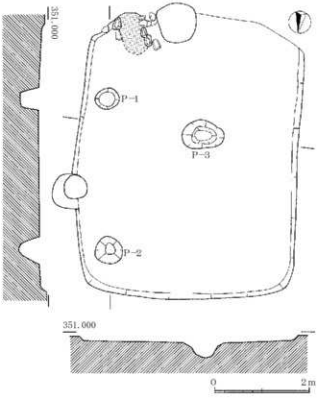


図33　ＳＢ17実測図（Ｓ＝１：80）

ＳＢ20

平面正方形を呈する。隅をトレンチに、中央を土坑によって切られる。床面はレキを含み軟弱である。

住居に伴う柱穴としてはＰ１，２が考えられるが、住居東側での検出は見られなかった。

ＳＢ20（北西から）

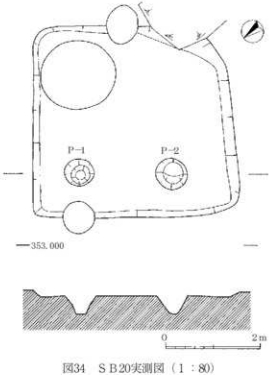


図34　ＳＢ20実測図（１：80）

B区古墳時代住居、土坑（北西から）

2　土坑

ＳＫ93

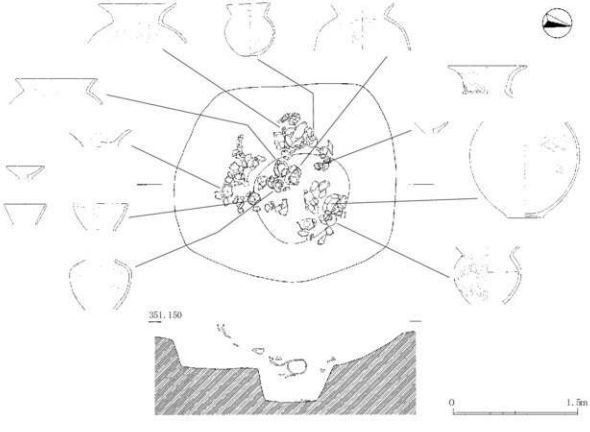


図35　ＳＫ93実測図（Ｓ＝１：30）（土器、Ｓ＝１：８）

径１ｍの円形の掘り込みである。検出の時点より土器と石が見え始めており、掘り込み内の広い範囲に渡るものであった。地山のレキ層を掘り込んでおり、一部壁面が判然としなかったが、２段に掘り込まれたものである。

土器は主に検出面から２段目の上部までみられる。土器の下からは湧水がみられ始め、形態からも井戸であることが推測される。土器は形を残してはいるが石と一緒に入れられていたため、多くは潰れた状態であった。土器と石は廃棄時に一度に入れられたものと考えられる。

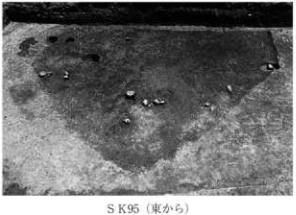
ＳＫ93土器検出（北から）

ＳＫ93（北から）

ＳＫ95

平面は隅丸方形を呈する。遺構は調査区外へと延びているため、半分ほどの検出となった。検出面から10cm弱の深さで、全体にゆるい舟底状に掘り込まれている。

遺構内にはほぼ完形の土器が散らばった状態で検出された。器台や小型甕を中心とし、いずれも床面に付いた状態であったことから、意図的に置かれたものと判断される。遺構に伴うピットの中には小型甕が入っているもの（Ｐ１）がみられた。



ＳＫ95（東から）

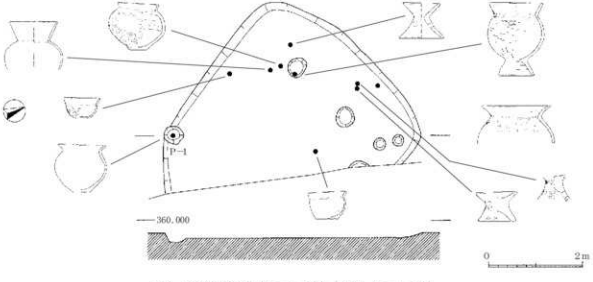


図36　ＳＫ95実測図（Ｓ＝１：80）（土器、Ｓ＝１：８）

ＳＫ７・８

成人（ＳＫ８）と幼児（ＳＫ７）の土坑墓である。２基は隣接した位置にあり、頭位をほぼ同じ方向（北）に向けている。

ＳＫ８は、長辺185cmの隅丸長方形の掘り込みである。人骨が１体分検出され、頭部の脇に後世の柱穴が掘られているのと、足首の部分を溝によって切られる他は良好な状態であった。仰臥伸展葬で、木棺などの痕跡はみられない。

ＳＫ７は楕円に近い長方形の掘り込みである。人骨は１体分、横位の屈葬である。副葬品とみられる鹿角の加工品が１点ある。

人骨は検出時、大体の形態は残していたが、骨自体は大変脆い状態であった。

ＳＫ７・８は、位置や頭位から同時期のものと考えられ、切り合いと覆土中の土器片から、平安時代のものと考えられる。

ＳＫ７、８（南から）

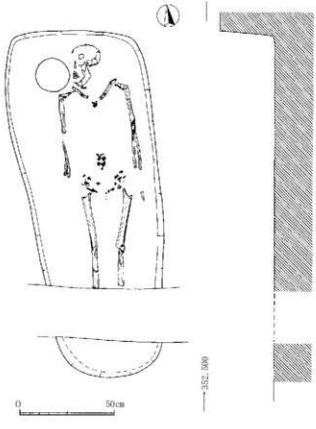


図37　ＳＫ８実測図（Ｓ＝１：20）

ＳＫ８（南から）

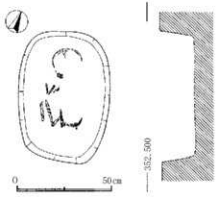


図38　ＳＫ７実測図（Ｓ＝１：20）

ＳＫ７（南から）

ウシ埋納土坑

平面長方形を呈する。南側隅を土坑によって切られる他は良好な状態である。

土坑北隅にウシの下顎骨が横に並べられた状態で検出された。１個体分の下顎骨を左右に分けてから並べており、意図的に置かれたものと判断される。土坑中からはウシの下顎骨以外の遺物の検出はみられなかった。

時期は平安時代と推測され、ウシの下顎の骨のみを改めて土坑内に埋納したものである。

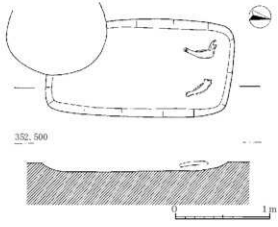
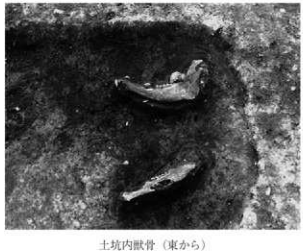


図39　ウシ埋納土坑実測図（Ｓ＝1/40）

ウシ埋納土坑（南から）



土坑内獣骨（東から）

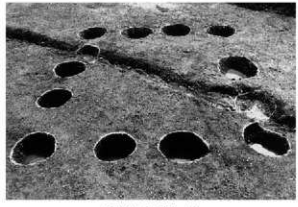
3　掘立柱建物

掘立柱建物は３軒の検出があった。この内ＳＴ１とＳＴ２は隣接した位置にある。ＳＴ１・２が３×１間、ＳＴ３が４×３間の規模で、主軸はＳＴ１が東、ＳＴ２が北、ＳＴ３が北東方向に取る。柱穴は柱根はみられず、検出面からはおおよそ30～50cmの深さがある。

時期は、ＳＴ１・２は出土土器と周辺の遺構との切り合いから平安時代と考えられるが、ＳＴ３については遺構の位置などから古墳時代以降と推測するにとどまる。

ＳＴ１（南西から）

ＳＴ２（南から）



ＳＴ３（北東から）

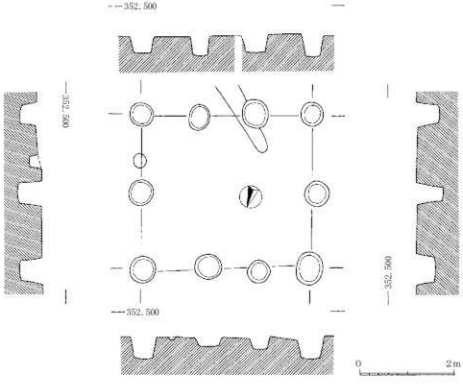


図40　ＳＴ１実測図（Ｓ＝１：80）

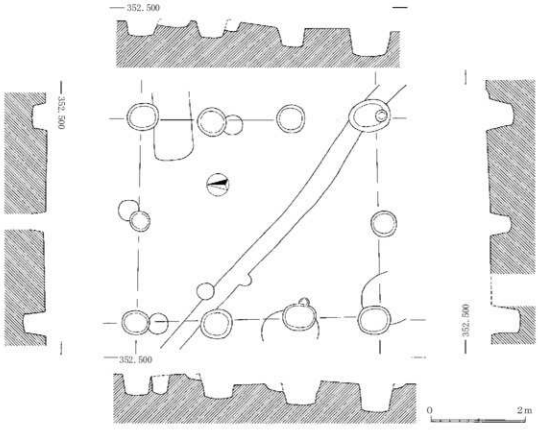


図41　ＳＴ２実測図（Ｓ＝１：80）

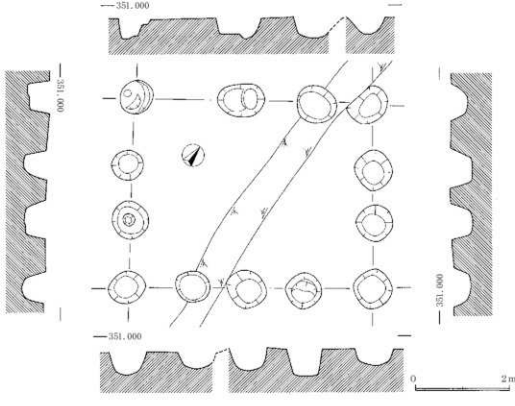


図42　ＳＴ３実測図（Ｓ＝１：80）

4　井戸

遺跡内で検出した土坑の内、井戸として確認したものは全部で16基である。検出面からの掘り込みは170cm～60cmで、いずれも掘り下げている時点から湧水がみられ、遺跡全体での湧水点が高いことがわかる。この内、上部周辺や底部に石材又は木材がみられるものもあるが、後に投げ込まれたことがうかがわれるものが多い。

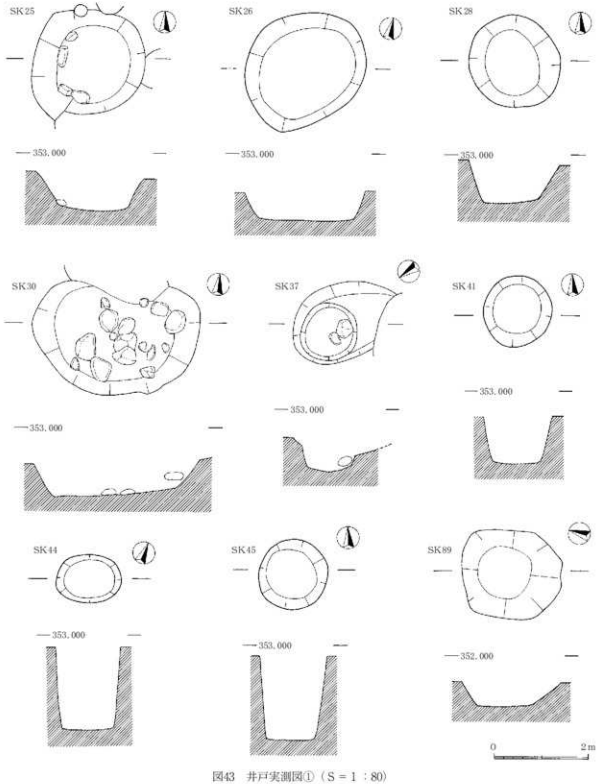


図43　井戸実測図①（S＝1：80）

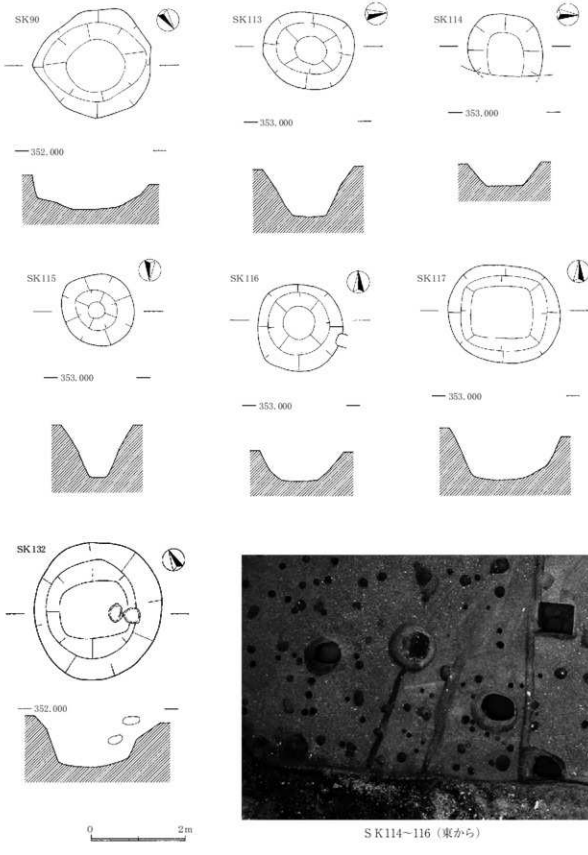
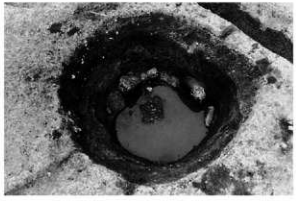


図44　井戸実測図（S＝1：80）

SK114～116（東から）



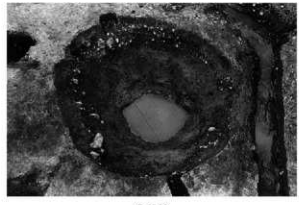
S K25

S K28

S K30

S K44

S K45



S K89

S K117

S K132

5　溝

ＳＤ34

南北方向に伸び、南側は調査区外となる。遺構中程が外側へふくらむ不整形な形を呈する。

壁面が明瞭であったのに対して底面ははっきりとせず、覆土の色調が変化した時点で一旦底面とした（ＳＤ34上面）。覆土中からは、完形の坏や青銅製の蝶番、ウマの下顎骨が出土している。

グリッド（Ｃ区―２）によって遺構周辺を掘り下げた際、下面に続く検出があった。上面よりは北側がやや短くなり、平面形は歪んでいる。底面は凹凸があり、礎石とみられる石材の検出があった。下面検出から底部までの深さは約24cm、上面からの深さは90cmを測る。

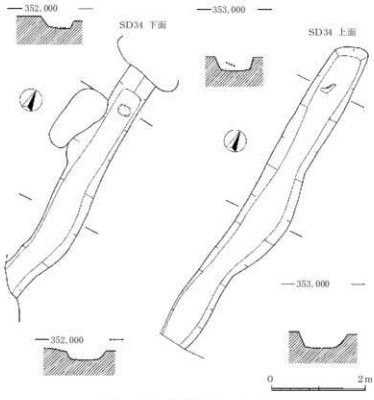
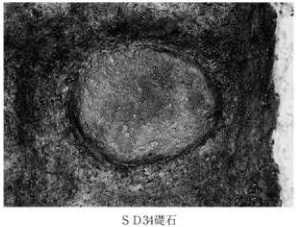


図45　ＳＤ34実測図（Ｓ＝１：80）

ＳＤ34（下面）（北から）

ＳＤ34（上面）（南から）



ＳＤ34礎石

ＳＤ34獣骨

6　性格不明遺構

ＳＸ７

南北方向に伸び、北側は調査区外となる。平面形は不整の楕円形を呈する。

掘り込みは大きく２段に掘り込まれ、底面はゆるい舟底状を呈し、検出面からの深さは約45cmを測る。

２段目の上部縁辺を中心として10～30cm大の河原石と角礫、土器がみられる。さらに底部には完形の坏や長頸壺がみられる。土器、石共に遺構の底部と接しているものが多い。

底部には径１ｍ、深さ50cm程の円形の掘り込みがみられる。なお、この中からの土器の出土はみられなかった。

南北方向での断面から、調査区外となる北側の底部は円形の土坑の辺りから立ち上がることが推測され、遺構の底部と円形土坑からは湧水がある。土器・石は共に意図的に入れられたことがうかがわれるが、遺構の性格について明確にはし得ない。

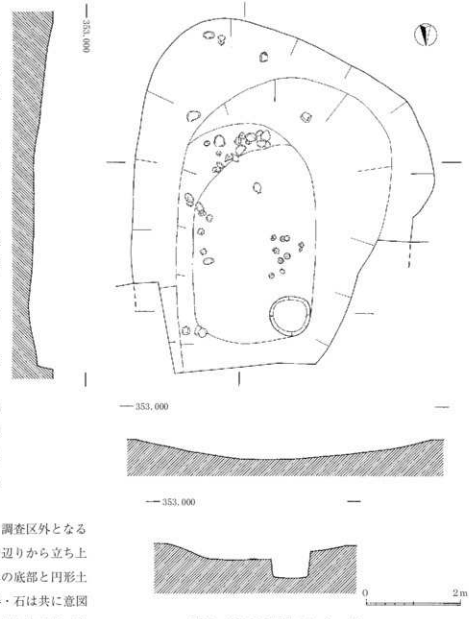


図46　ＳＸ７実測図（Ｓ＝１：80）

ＳＸ７（北から）

ＳＸ７土器・石（北から）

表1　遺構一覧表

(1)　住居址

区	遺構名	時期	平面形態	規模(m)	主軸	検出率	炉／カマド	備考	図版
A	1号住居 （SB1）	古墳 （中期）	隅丸方形	4.6×4.2	N25°W	完	地床炉	主柱穴（4） 土器埋納ピット	図－13
A	2号住居 （SB2）	古墳 （中期）	隅丸方形	5.7×4.8	N15°W	1/3		主柱穴（1）	図－14
A	3号住居 （SB3）	古墳 （中期）	隅丸方形？	－	－	1/5			－
A	4号住居 （SB4）	古墳 （中期）	隅丸方形	4.9×4.6	N34°W	完	カマド		図－14
A	5号住居 （SB5）	古墳 （中期）	方形	4.8×5.0	N32°W	完	（焼土面）	主柱穴（3）	図－15
A	6号住居 （SB6）	古墳 （中期）	方形	－×5.8	N38°W	1/3			図－16
A	7号住居 （SB7）	古墳 （中期）	方形	4.8×－	N32°W	1/3	地床炉	主柱穴（3）、周溝	図－17
A	8号住居 （SB8）	古墳 （後期）	方形	4.5×4.7	N30°W	完	カマド	主柱穴（4）	図－18
A	9号住居 （SB9）	古墳 （後期）	隅丸方形	4.4×4.6	N62°W	完	カマド	主柱穴（4）、周溝、	図－19
A	10号住居 （SB10）	古墳 （後期）	隅丸方形	6.0×6.2	N45°W	完	カマド	主柱穴（4）、周溝 ベット状遺構	図－20
A	11号住居 （SB11）	平安	方形	－	N43°W	1/3	（焼土面）		図－32
A	12号住居 （SB12）	古墳 （後期）	方形	5.4×－	N18°W	1/3	カマド	周溝	図－21
A	（SB13）	（欠番）	－	－	－	－	－		－
A	（SB14）	（欠番）	－	－	－	－			－
A	15号住居 （SB15）	古墳 （前期）	隅丸長方形	5.3×4.0	N42°W	完	焼土／炭化物 （住居以外の遺構の可能性あり）		図－22
A	16号住居 （SB16）	古墳 （後期）	隅丸方形	6.4×6.5	N27°W	完	カマド	主柱穴（4）、周溝 炭化材	図－23・24
B	17号住居 （SB17）	平安	隅丸長方形	6.2×5.6	S9°E	完	カマド		図－33
B	18号住居 （SB18）	古墳 （後期）	隅丸方形	4.8×5.0	N43°W	完	カマド	主柱穴（4）	図－25
B	19号住居 SB19	古墳 （後期）	隅丸方形	7.4×7.4	N42°W	完	カマド	主柱穴（4） （内2箇所に礎石）	図－26・27・28
C	20号住居 SB20	平安	正方形	2.1×2.1	N35°W	4/5			図－34
C	21号住居 SB21	古墳 （中期）	長方形？	6.2×5.7	N47°W	2/3	（炉）	土器埋納ピット	図－29
C	22号住居 SB22	古墳 （中期）	隅丸方形	－	－	1/5		柱穴	図－30
C	23号住居 SB23	古墳 （中期）	方形？	－×2.3	N36°W	1/2	（炭化面）		図－31

⑵　土坑

区	遺構名	種別	時期	平面形態	規模（m）	主軸	検出率	備考	図版
B	93号土坑（ＳＫ93）	土器廃棄	古墳（前期）	円形	2.7×－×0.82	N27°E	完	井戸	図－35
B	95号土坑（ＳＫ95）	土器埋納	古墳（前期）	隅丸長方形	4.4×－×0.95		1/2		図－36
A	7号土坑（ＳＫ7）	土坑墓	平安	長方形	0.7×0.4×0.18	N27°W	完	幼児屈葬	図－38
A	8号土坑（ＳＫ8）	土坑墓	平安	楕円形	1.8×0.7×0.29	N6°W	完	成人伸展葬	図－37
A	ウシ埋納土坑	獣骨埋納	平安	長方形	2.0×1.0×0.1	N10°W	完	下顎1個体分	図－39
A	25号土坑（ＳＫ25）	井戸	平安	円形	2.3×2.2×0.68		完	底部に河原石	図－43
A	26号土坑（ＳＫ26）	井戸	平安	円形	2.7×2.1×0.6		完		図－43
A	28号土坑（ＳＫ28）	井戸	平安	円形	2.0×2.0×0.92		完		図－43
A	30号土坑（ＳＫ30）	井戸	平安	楕円形	3.5×2.4×0.72		完	上面～底部に石	図－43
A	37号土坑（ＳＫ37）	井戸	平安	円形	1.2×1.3×0.72		完	上面石	図－43
A	41号土坑（ＳＫ41）	井戸	平安	円形	1.5×1.4×1.0		完		図－43
A	44号土坑（ＳＫ44）	井戸	平安	楕円形	1.4×1.0×1.76		完		図－43
A	45号土坑（ＳＫ45）	井戸	平安	円形	1.5×1.5×1.76		完	底部木材	図－43
B	89号土坑（ＳＫ89）	井戸	平安	円形	2.1×1.8×0.52		完		図－43
B	90号土坑（ＳＫ90）	井戸	平安	楕円形	2.5×2.2×0.72		完		図－44
C	113号土坑（ＳＫ113）	井戸	平安	楕円形	1.9×1.6×0.88		完	覆土中砥石	図－44
C	114号土坑（ＳＫ114）	井戸	平安	円形	1.6×－×0.52		完		図－44
C	115号土坑（ＳＫ115）	井戸	平安	円形	1.6×1.5×1.1		完		図－44
C	116号土坑（ＳＫ116）	井戸	平安	円形	1.8×1.7×0.64		完		図－44
C	117号土坑（ＳＫ117）	井戸	平安	楕円形	2.4×2.0×1.08		完	上面石	図－44
C	132号土坑（ＳＫ132）	井戸	平安	円形	2.9×2.7×1.12		完	上面石 底部木材・須恵器甕	図－44

⑶　掘立柱建物

区	遺構名	時期	規模		主軸	検出率	備考	図版
			間	桁×梁(m)				
A	1号掘立柱建物（ＳＴ1）	平安	3×2	3.6×3.3	N23°W	完		図－40
A	2号掘立柱建物（ＳＴ2）	平安	3×2	5.0×4.2	N88°E	完	中央を溝に切られる	図－41
B	3号掘立柱建物（ＳＴ3）	平安(？)	4×3	5.2×4.4	N44°E	完		図－42

第２節　遺物

１　土器

弥生時代

当該期の遺構は見られないが、検出面および覆土中より破片の出土がある。赤彩のあるものが占めており、後期に比定される。また北陸系土器（図48－36）の出土がある。

古墳時代

本調査では古墳時代の遺構は性格が明確であり、それに伴う土器も多く出土した。また、土坑および住居から一括して出土したものがみられる。前期は土坑からの、中・後期は住居からの出土である。この内、比較的まとまった出土がみられた遺構から、本遺跡での様相についてまとめる。

ＳＫ71（図47－７～11）台付甕、鉢、壺、器台がある。台付甕は口縁がやや外反し、胴部上半に最大径をもつ。壺は有段口縁で、口縁部段部に刻みのあるものと頸部に隆帯をもつものとがある。器台は受部が屈折し脚部は穿孔のあるハの字に広がった中空のものである。

ＳＫ93（図47－12～19）壺、甕、小型壺、器台がある。壺は頸部に刻みの施された隆帯をもつ。甕は丸胴でハケ調整を基本とした口縁が短く外反したくの字型のものと、口縁部が長く外反する小型のものとがある。器台は受部が小さい椀状を呈する。受部のみと穿孔のある脚部の一部のみであるが、いずれも中空である。

ＳＫ95（図48－20～35）甕、小型台付甕、小型丸底土器、有段口縁壺がある。甕は小型のもので、口縁が短く立ち上がるものと外反するもの、頸部が長く伸び口縁部が外反するものとがある。小型丸底土器は口縁部と胴部の高さがほぼ同じで口縁が緩く外反するものと、これとほぼ同じ大きさの平底で口縁部が短く外反するものとがある。器台は受部が椀状の中空のもの、穿孔のある中実の脚部と中実のＸ字型のものとがある。有段口縁壺は口縁部段部に刻みが施される。

ＳＢ21（図57－149～158）坏、高坏、甕がある。高坏は完形のものはないが、坏部は外面下部に段を持つもの、外に向かって開く椀型のもの、半球形で口縁部が外反するものが、脚部はハの字に開くものと坏接合部から下部にかけて膨らみ、裾部が水平に広がるものである。

ＳＢ16（図53－98・99、図54・55、図56－137・138・140）坏、壺、甕、甑、須恵器があり、遺構の中では出土量が最も多い。坏は、ａ：半球形の胴部に口縁部が強く外反するもの、ｂ：ａより底部が平坦化するもの、ｃ：口縁部が上方を向き箱型となり、底部と一体化したもの、ｄ：半球形を呈し、口縁部が上方を向くもの、の４つに分けられ、このうちａ～ｃでは内面黒色処理がされたものがある。甑は牛角状の把手のついたバケツ状の底のない大型のものと底面単孔の中型のもの、甕は内外面ハケ調整の長胴甕と中型のものとがある。須恵器は短頸壺で頸部が外反し、調整は回転ナデ、底部が回転ヘラケズリのもので陶邑編年Ⅱ形式２段階に相当するものである。

土坑出土のものでは、小型精製土器の出土が特徴である。器台では受部が屈折した精製のものから、最終段階である粗製のＸ字型のものまでが、またやや粗製の小型坩までがみられる。他には有段口縁壺を持ち、台坏甕は口縁が外反したものであり、ここでの他地域からの搬入土器はみられず、畿内布留式土器の影響を受けたものととらえられる。

住居出土のものは、ＳＢ16と同じ様相を示すものにＳＢ８（図51）、ＳＢ５（図49－49～51、図50－52～56）が

挙げられる。また、ＳＢ７（図50－58～62）、ＳＢ９（図52－78～83）では坏は半球形の口縁部が外反し、内面に稜を持つもので、このうち少数ながら黒色処理がされたものがある。また、甑は口縁が外反し胴部にやや丸みのある牛角状把手を持ったものがみられる。本遺跡においては、ＳＢ９段階からカマドおよび付随する遺物がみられ始め、ＳＢ７からは明確な黒色土器の使用がみられ始める。これよりも早い時期はＳＢ21とＳＢ２・３（図49－44～48）がある。ＳＢ２・３は僅かではあるが、甕において、口縁がくの字に外反した丸胴のもの（図53－97）からＳＢ２・３例を経て長胴化する様子が看取される。住居は古墳時代中期、５世紀後半から後期６世紀中葉を中心として６世紀後半まで営まれたものと考えられる。

奈良・平安時代

この時期の遺構は土坑などの検出は多くあったものの性格が明確なものは少ない。土器の出土は検出面からのものが多い。また、遺構の内性格不明遺構からはまとまって出土している。

須恵器、土師器、灰釉・緑釉陶器が出土している。土師器は坏、椀、皿、盤、甕、壺があり、中でも坏の出土量が多く、そのほとんどがロクロ調整で底面回転糸切りのものである。黒色土器は、暗文のある例（図66－451）もあるが他は明確なミガキがみられないものが多い。須恵器は坏、壺、蓋坏、すり鉢、横瓶、その他破片で大甕がある。蓋坏は８世紀後半、横瓶は９世紀前半に比定される。

灰釉陶器は器形の分かるもので椀・皿・段皿が出土しており、図61－261、図63－309・310・311　、図64－365が美濃大原２号様式、図66－457が丸石２号様式に比定され、緑釉陶器は椀のみで虎渓山１号窯式段階とみられる（図66－460）。

文字資料は７点あり、坏６点（須恵器５・土師器（黒色土器）１）の墨書と小型壺１点（図64－369）の線刻である。文字は「伏」「人」「兀」「五」「平」「本」（線刻）がみられる。また、須恵器坏を転用した硯（図64－366）は坏部を打ち欠き底面を使用したものである。

この他、青磁とみられる破片（写真のみ）がある。土坑や検出面からの出土であるが器種や時期などについては明確にし得ない状態である。

土器の遺構からの出土は、土坑か性格不明遺構に限られている。このため、器種は坏や椀を中心としたもので種類に乏しいものであった。この中で、遺構の中で比較的量が多く灰釉陶器を伴うＳＸ７（図64－340～370）を例にみると、坏、椀、長頸壺、小型壺・甕、転用硯がある。坏は須恵器が２点、他は土師器でその半数近くを黒色土器が占めている。口径は11～13cm、器高４cm前後のものが多く、次いで口径15cm、器高が５cm程のものがみられる。小型壺は文字の線刻があるもの。また長頸壺は口縁部のみを欠く状態で焼きが甘く全体に赤色を呈する。灰釉陶器は椀と壺があり、壺の方は明確でないが椀が大原２号様式であることから、遺構は10世紀前半に比定される。

以上のように今回は特に灰釉陶器・緑釉陶器によりおおまかな年代をみることができた。灰釉・緑釉陶器からは10世紀前半から11世紀後半までの時期が、また須恵器からは８世紀代から９世紀までの時期が考えられるものである。

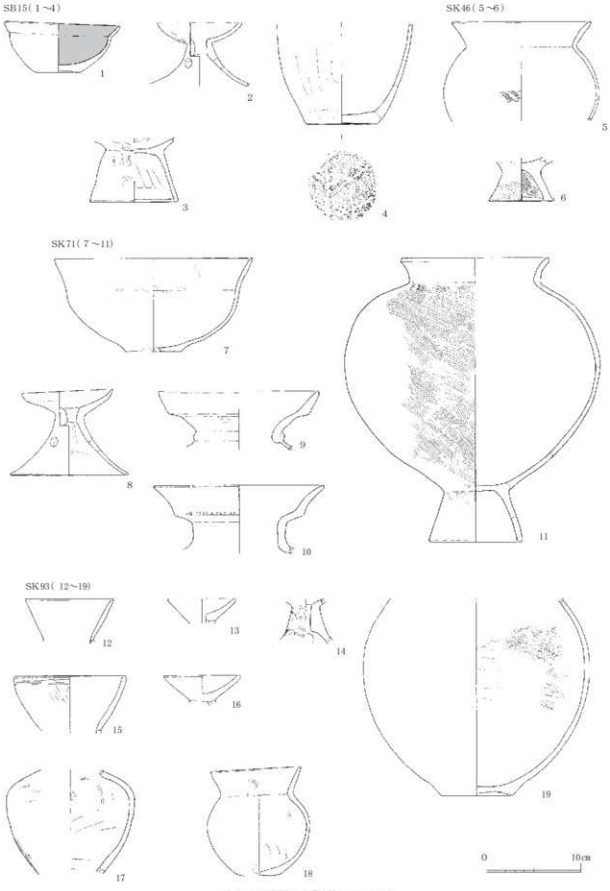


図47　土器実測図①（S＝1：4）

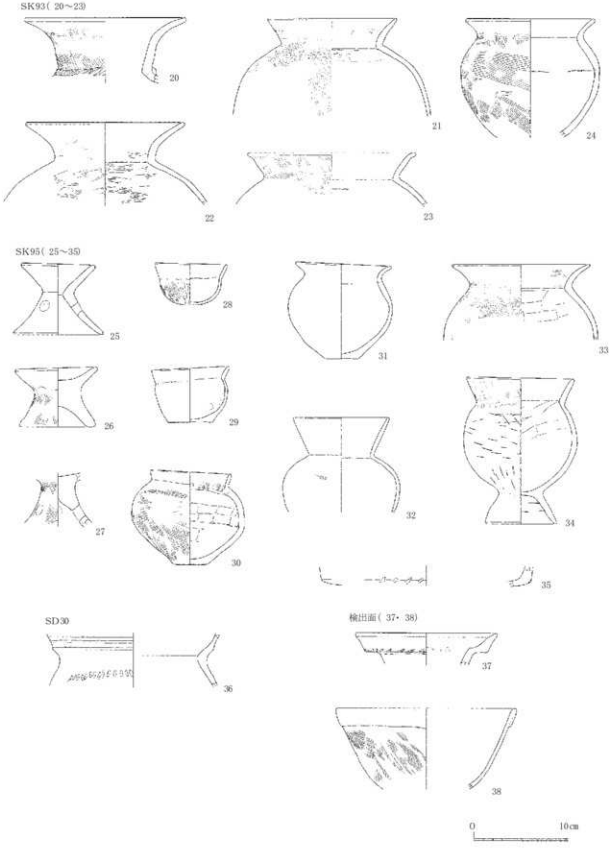


図48　土器実測図②（S＝1：4）

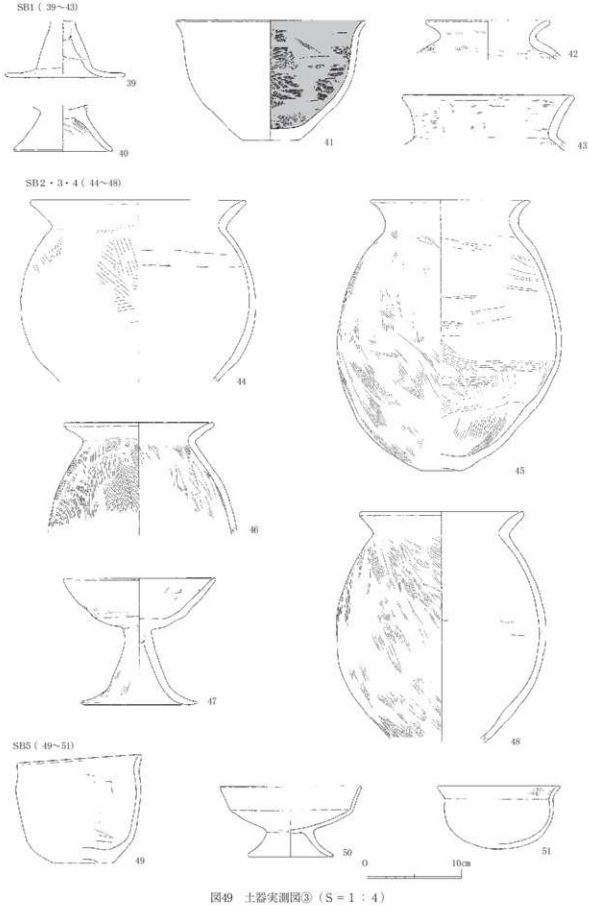


図49　土器実測図③（S＝1：4）

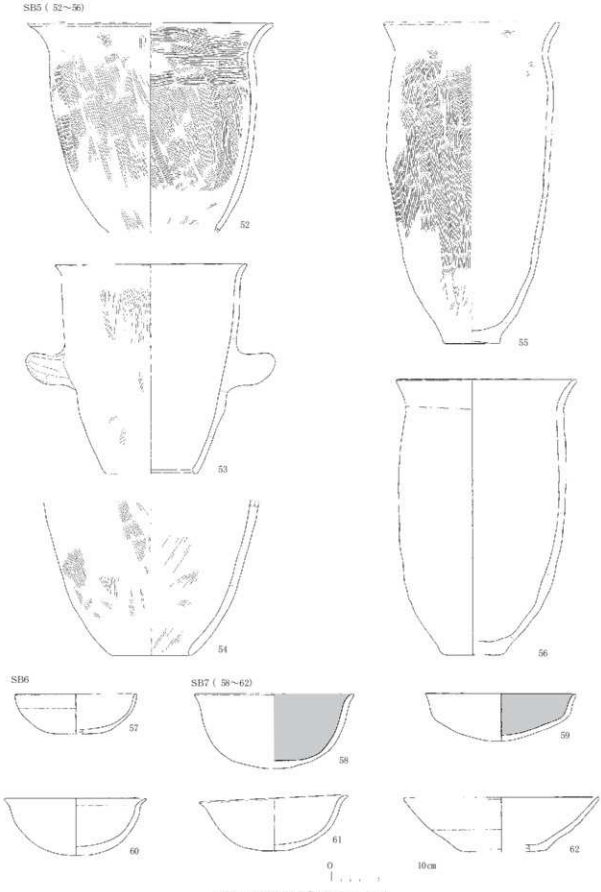


図50　土器実測図④（S＝1：4）

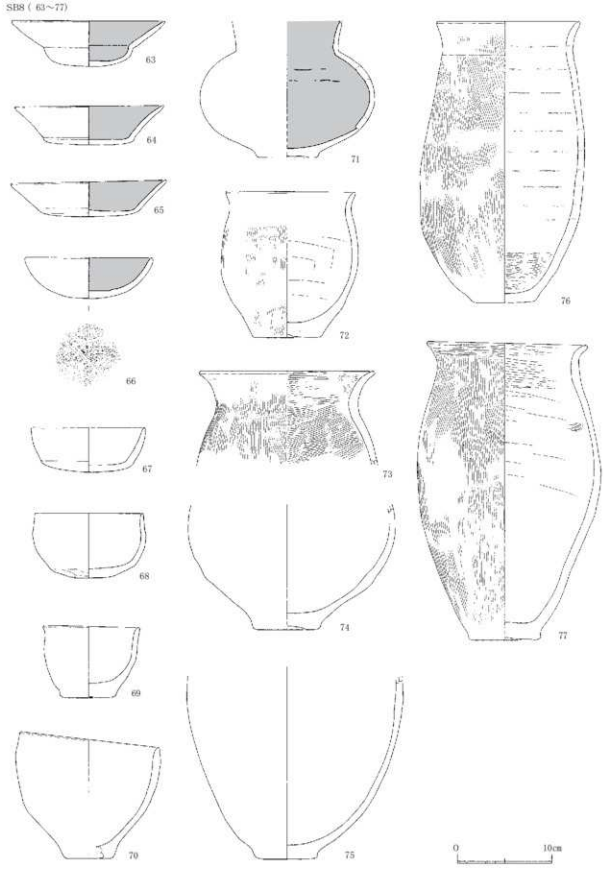


図51　土器実測図⑤（S＝1：4）

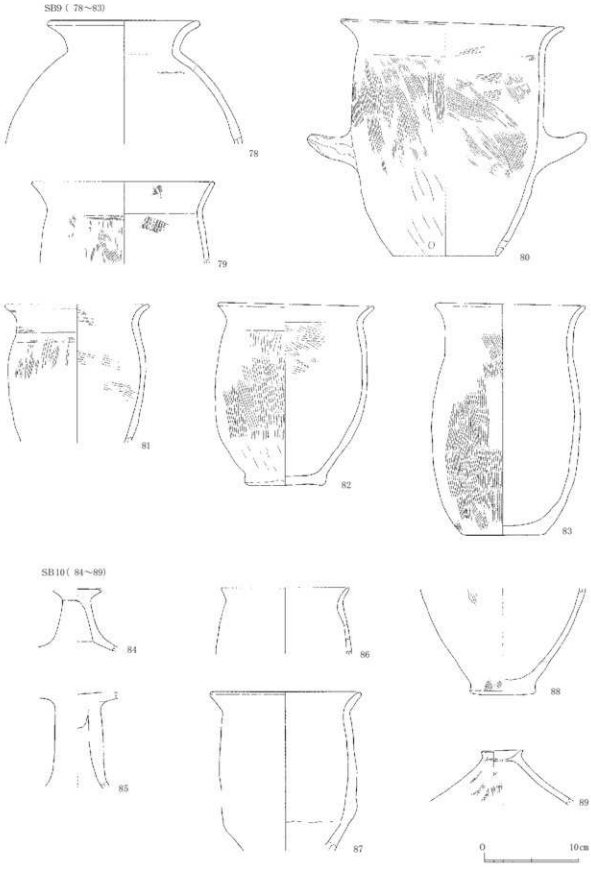


図52　土器実測図⑥（S＝1：4）

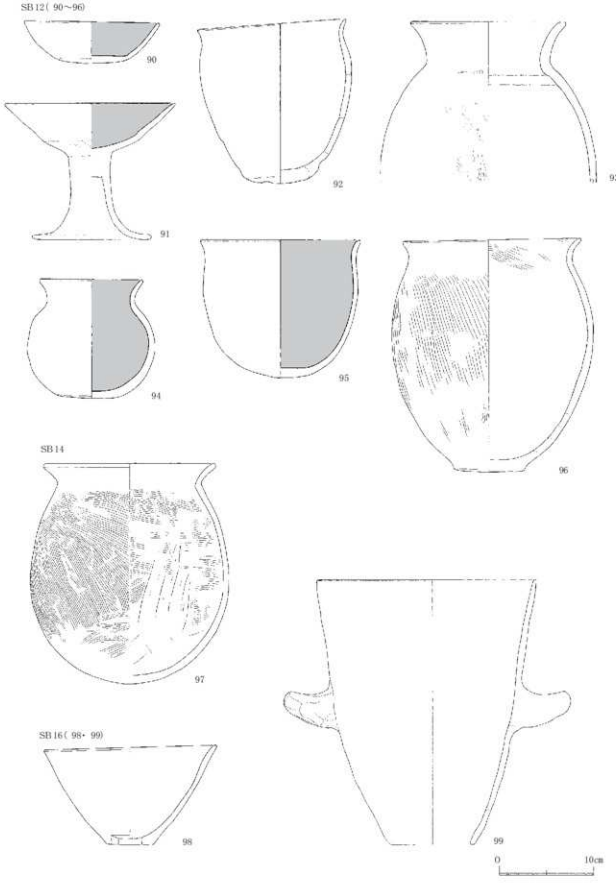


図53　土器実測図⑦（S＝1：4）

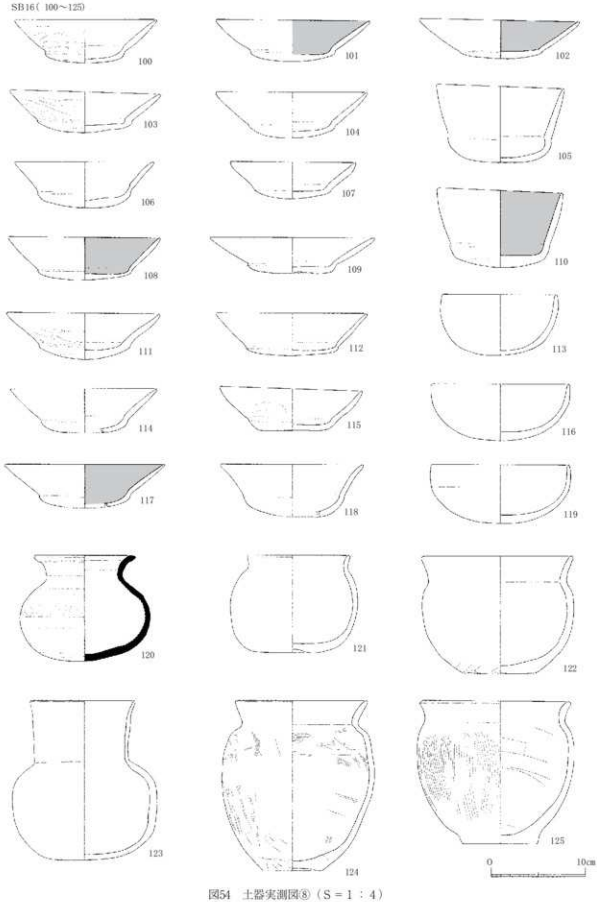


図54　土器実測図⑧（S＝1：4）

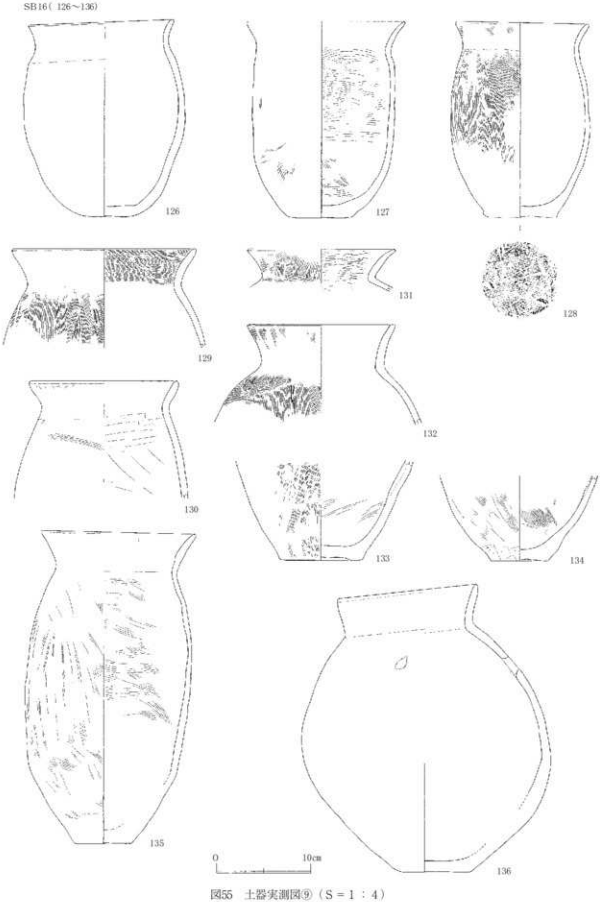


図55　土器実測図⑨（S＝1：4）

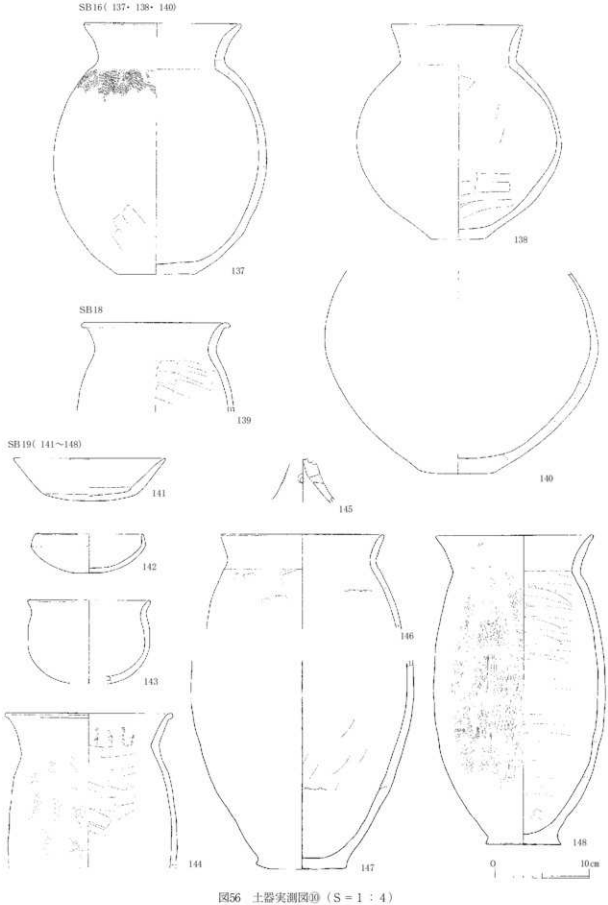


図56　土器実測図⑩（S＝1：4）

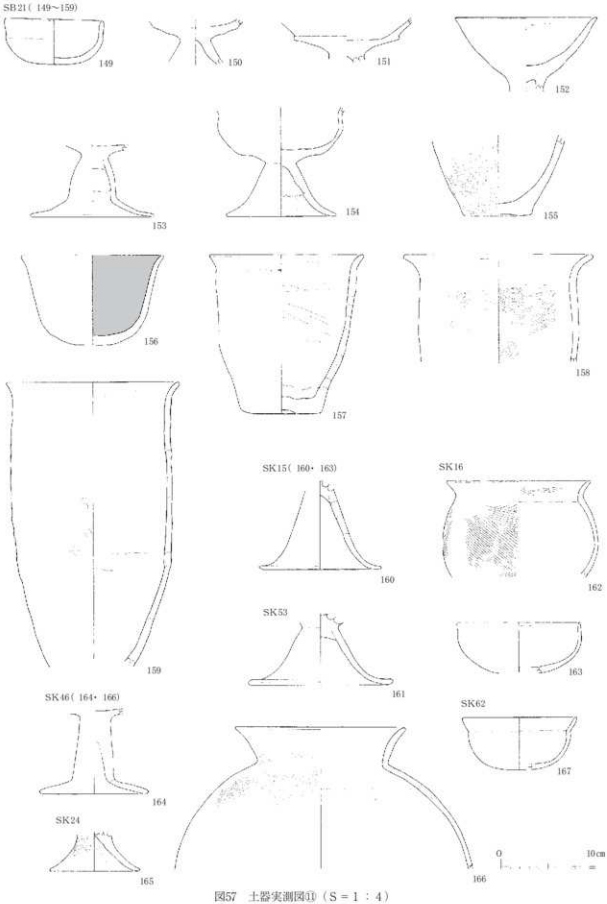


図57　土器実測図⑪（S＝1：4）

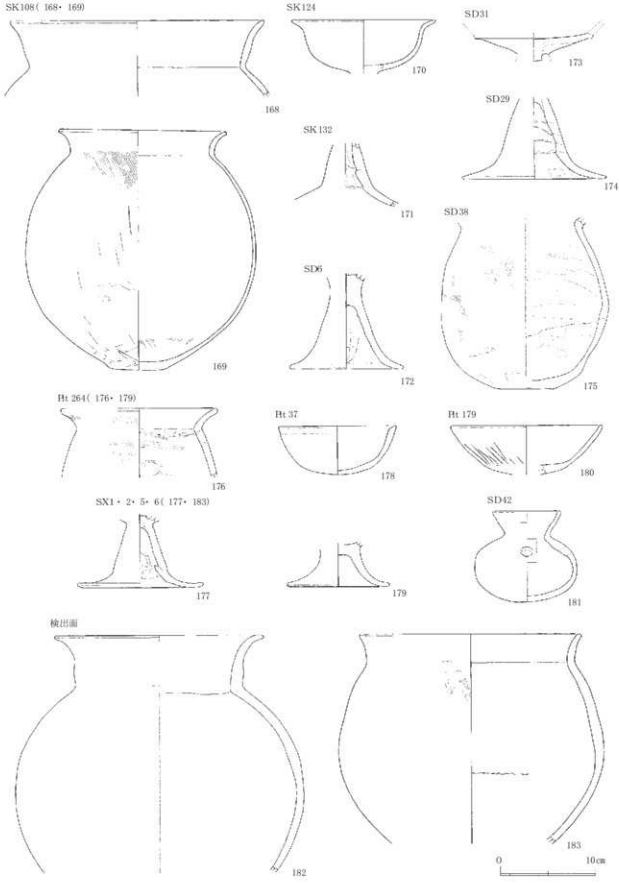


図58　土器実測図⑩（S＝1：4）

包含層・検出面（184～204）

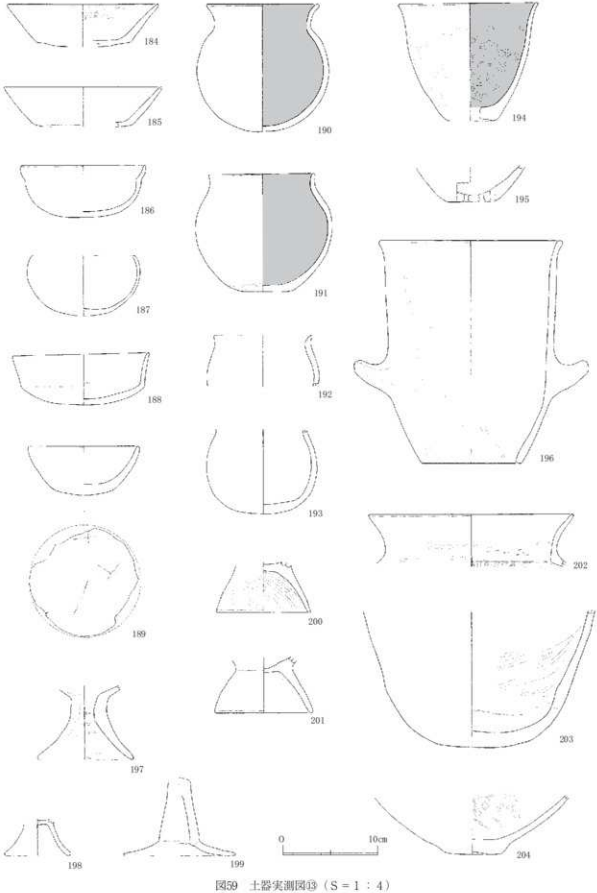


図59　土器実測図⑲（S＝1：4）

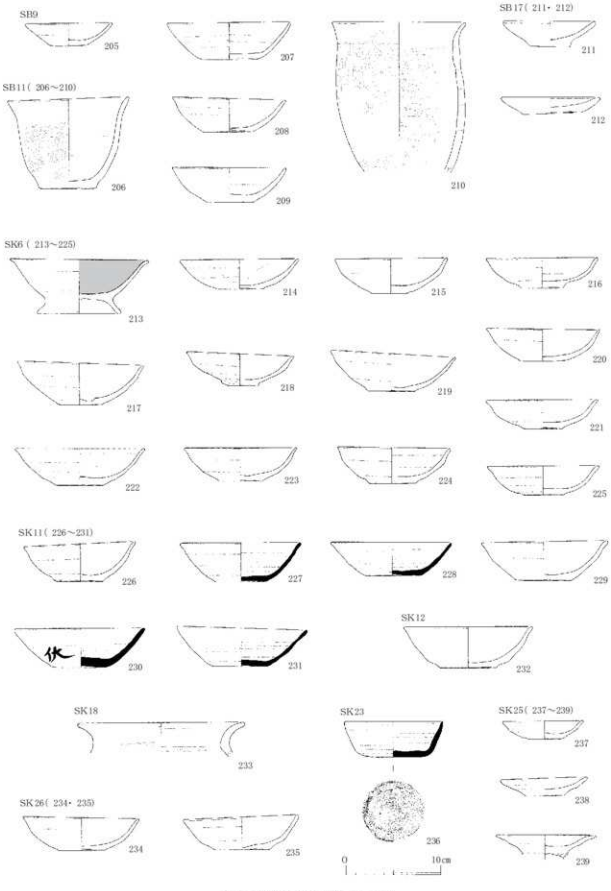


図60　土器実測図⑲（S＝1：4）

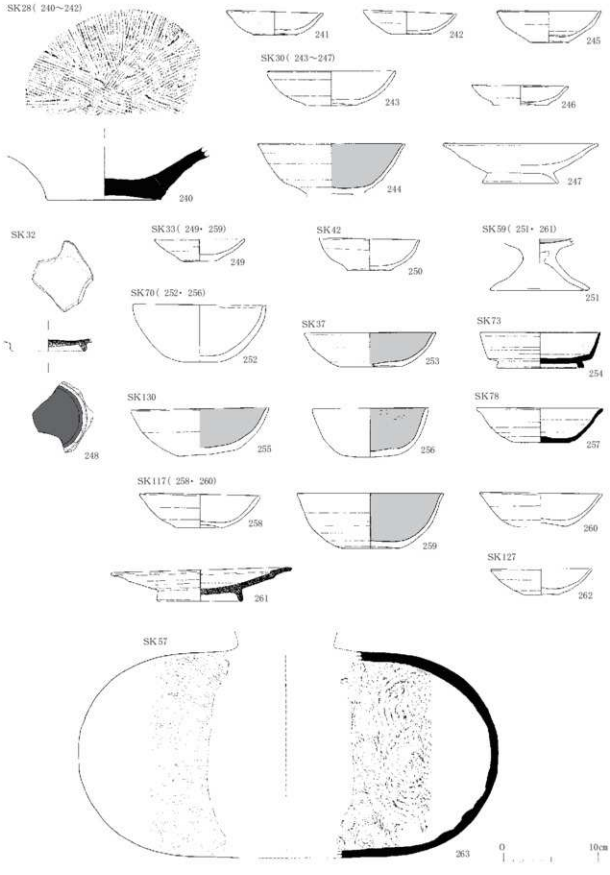


図61　土器実測図⑮（S＝1：4）

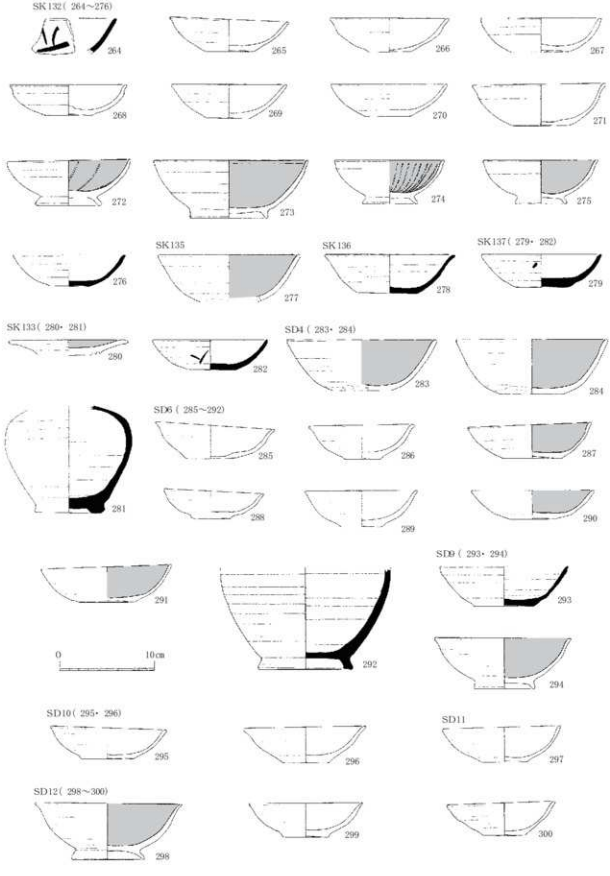


図62　土器実測図⑩（S＝1：4）

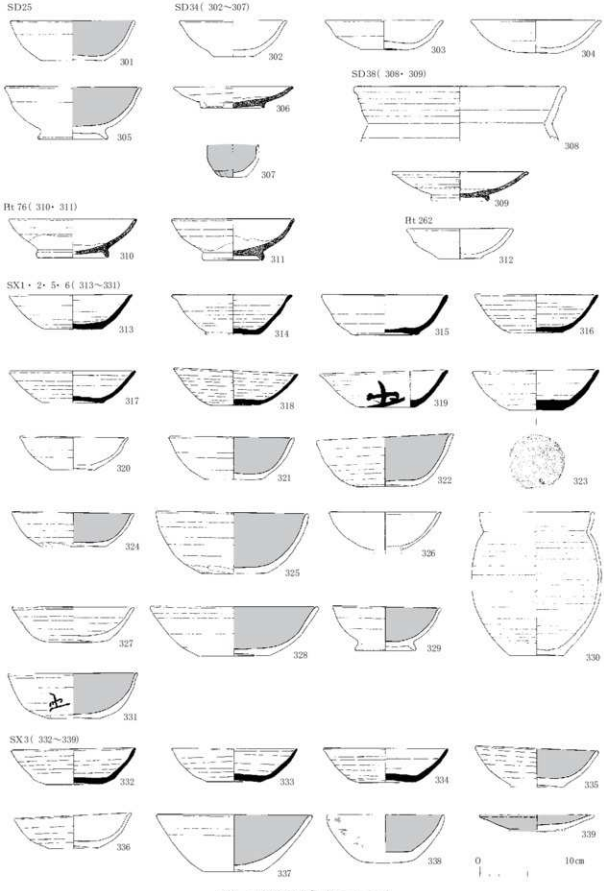


図63　土器実測図⑫（S＝1：4）

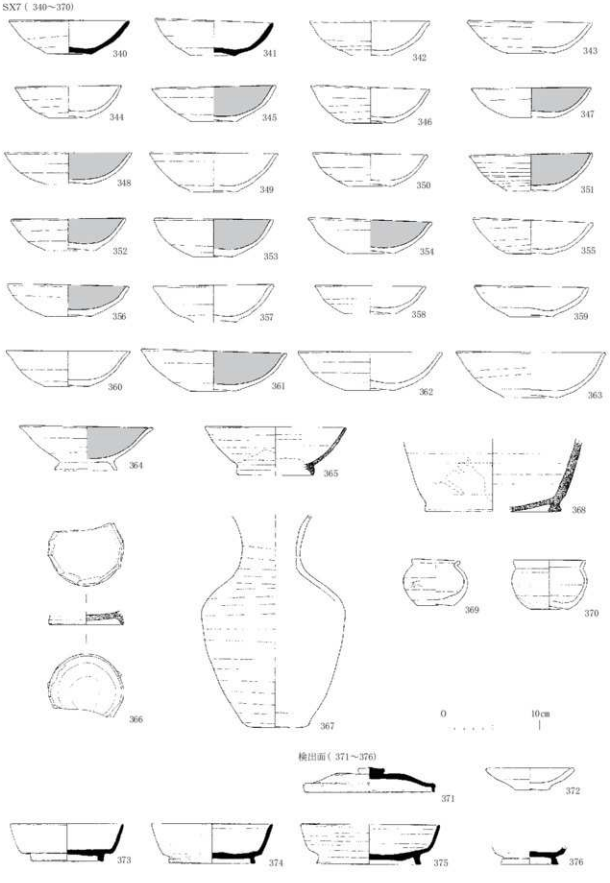


図64　土器実測図⑱（S＝1：4）

検出面（377～432）

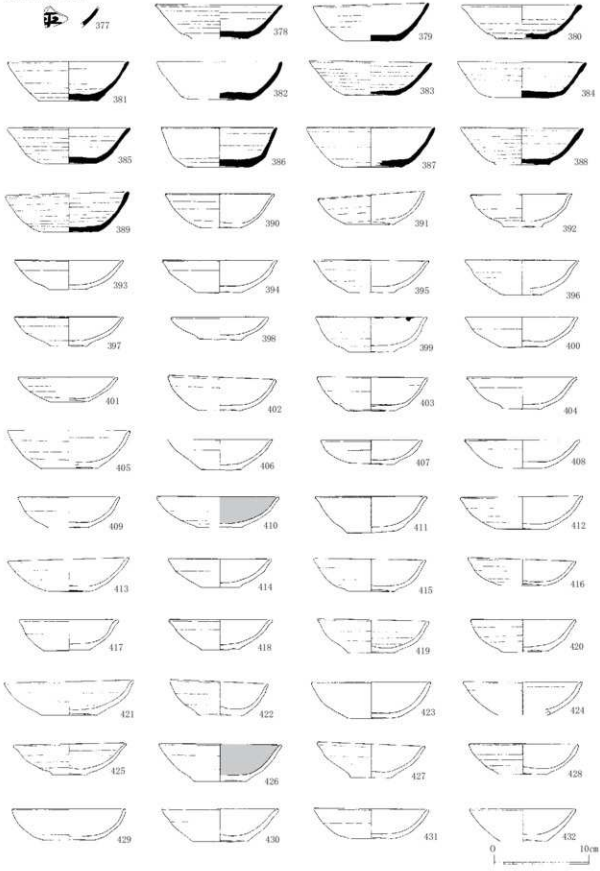


図65　土器実測図⑲（S＝1：4）

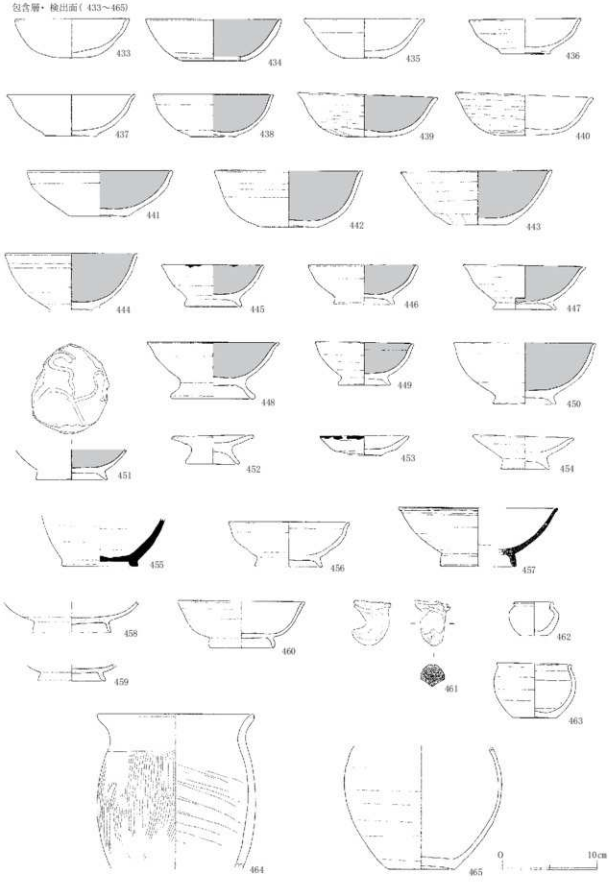


図66　土器実測図⑨（S＝1：4）

表２　土器観察表

№	出土位置	種別	器種	遺存度	法量（cm）			成形・調整等		特記
					口径	器高	底径	外面	内面	
ＳＢ－１（ＡＩＣ）										
39	覆土	土師器	高坏	脚部	－	－	12.7	磨き	なで	
40	覆土	土師器	高坏	脚部	－	－	10.3	縦磨き	脚部：はけめ　脚裾部：なで	
41	覆土	土師器	鉢	1/3	19.8	12.7	5.9		なで、はけめ、黒色処理	
42	覆土	土師器	甕	口縁部	12.8	－	－	なで、はけめ	なで、はけめ	
43	Pit内	土師器	甕	口縁部	17.8	－	－	はけめ	はけめ	
ＳＢ－２・３・４（ＡＩＣ）										
44	覆土	土師器	甕	1/2	22.4	－	－	なで、はけめ	なで	
45	覆土	土師器	甕	4/5	16.5	28.7	4.0	なで、はけめ	なで、はけめ	
46	覆土	土師器	甕	1/3	15.6	－	－	なで、はけめ	なで、はけめ	
47	覆土	土師器	高坏	4/5	15.9	13.4	12.4	坏部：なで、はけめ　脚部：はけめ　脚裾部：なで	坏部：はけめ→縦磨き　脚部：なで	
48	覆土	土師器	甕	2/3	17.0	－	－	なで、はけめ	なで	
ＳＢ－５（ＡＩＣ）										
49	覆土	土師器	鉢	7/10	13.2	11.0	6.5	なで	なで	
50	覆土	土師器	高坏	1/2	15.0	7.4	9.0	はけめ→磨き？	坏部：横磨き　脚部：なで	
51	覆土	土師器	坏	3/5	13.0	6.7	－	口縁部：なで→横磨き？　体部：横磨き？	口縁部：はけめ→横磨き？　体部：縦磨き？	
53	覆土	土師器	甑	7/10	20.3	22.1	9.6	口縁部：なで　胴部：はけめ→縦・斜磨き	横磨き	
55	覆土	土師器	甕	3/5	18.5	34.0	6.0	口縁部：なで　胴部：はけめ	口縁部：はけめ→なで　胴部：なで	
ＳＢ－６（ＡＩＣ）										
57	覆土	土師器	坏	1/3	12.8	4.2	－	横磨き	横磨き	
ＳＢ－７（ＡＩＣ）										
58	覆土	土師器	坏	1/2	16.8	7.9	－	横磨き	横磨き、黒色処理	
59	覆土	土師器	坏	3/4	15.9	5.0	－	横・斜磨き	縦磨き、黒色処理	
60	覆土	土師器	坏	2/3	14.9	6.0	－	横磨き	横磨き	
61	覆土	土師器	坏	ほぼ完	15.7	5.5	3.1	磨き	磨き	
62	覆土	土師器	高坏	坏部	20.6	－	－	縦磨き	縦磨き	
ＳＢ－８（ＡＩＣ）										
63	覆土	土師器	坏	ほぼ完	16.3	4.8	－	横磨き	横磨き、黒色処理	
64	覆土	土師器	坏	3/5	15.8	4.1	9.6	磨き？	横磨き、黒色処理	
65	覆土	土師器	坏	7/10	16.5	3.7	9.8	横磨き	横磨き、黒色処理	
66	覆土	土師器	坏	－	9.6	4.3	－		横磨き、黒色処理	底部外面にへら記号あり
67	覆土	土師器	坏	5/6	11.9	4.7	－	磨き、削り	横磨き	
68	覆土	土師器	坏	ほぼ完	11.3	6.8	－	横磨き、削り	横磨き	
69	覆土	土師器	鉢	3/4	10.0	7.5	5.8	なで	なで	
70	覆土	土師器	鉢	－	14.5	12.5	5.0	なで	磨き	
71	覆土	土師器	壺	－	－	－	6.2		頸部：なで　胴部：横磨き、黒色処理	
72	覆土	土師器	甕	－	13.5	15.3	7.2	口縁部：なで　胴部：はけめ→なで	なで	
73	覆土	土師器	甕	－	18.2	－	－	口縁部：はけめ→なで　胴部：はけめ	はけめ	
74	覆土	土師器	甕	－	－	－	7.1	横磨き	なで	
75	覆土	土師器	甕	－	－	－	6.4	縦磨き	なで	
76	覆土	土師器	甕	3/4	14.9	29.7	6.6	はけめ	なで、はけめ	
77	覆土	土師器	甕	2/3	16.5	31.4	7.6	はけめ	はけめ、なで	

No.	出土位置	種別	器種	遺存度	法量（cm）				成形・調整等		特記
					口径	器高	底径		外面	内面	
SB－9（AIK）											
78	覆土	土師器	壺	1/10	16.2	－	－		はけめ→横磨き？	口縁部：はけめ→横磨き	
79	覆土		甕	1/10	19.3	－	－		口縁部：なで　胴部：はけめ	はけめ→なで	
80	覆土	土師器	甑	3/5	23.6	24.6	11.2		口縁部：なで　胴部：はけめ、なで	はけめ	胴下半部に焼成前穿孔あり
81	覆土	土師器	甕	3/5	15.2	－	－		口縁部：はけめ　胴部：はけめ→磨き？	口縁部：はけめ→磨き？　胴部：はけめ	
82	覆土	土師器	甕	7/10	16.5	19.2	8.6		口縁部：なで　胴部：はけめ、なで	口縁部：はけめ→なで　胴部：はけめ→なで	
83	覆土	土師器	甕	3/5	15.8	24.5	8.6		口縁部：なで　胴部：はけめ	口縁部：なで　胴部：なで	
205	覆土	土師器	坏	完	9.3	2.4	4.0		ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
SB－10（AIK）											
84	覆土	土師器	高坏	脚部	－	－	－		磨き		
85	覆土	土師器	高坏	脚部	－	－	－		はけめ→縦磨き	なで	
86	覆土	土師器	甕	－	13.5	－	－		なで	なで	
87	覆土	土師器	甕	－	16.0	－	－		なで	なで	
88	覆土	土師器	甕	底部	－	－	7.0		はけめ	なで	
89	覆土	弥生土器	壺	9/10	－	5.8	－		はけめ→縦磨き	横磨き	焼成前穿孔あり、混入遺物？
SB－11（AIK）											
206	覆土	土師器	鉢	3/4	12.8	9.4	6.2		口縁部：なで　胴部：はけめ	なで	
207	覆土	須恵器	坏	7/8	13.1	3.9	5.7		ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
208	覆土	土師器	坏	1/2	12.0	3.5	5.0		ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
209	覆土	土師器	坏	完	12.1	3.7	5.0		ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
210	覆土	土師器	甕	2/5	14.1	－	－		口縁部：なで　胴部：はけめ、削り	はけめ	
SB－12（AIK）											
90	覆土	土師器	坏	9/10	14.3	4.3	7.6		磨き？	磨き？、黒色処理	
91	覆土	土師器	高坏	4/5	18.0	14.4	12.6		坏部：はけめ→横磨き　脚部：縦磨き　脚縁部：横磨き	坏部：磨き？、黒色処理　脚部：なで	
92	覆土	土師器	甕	7/10	15.7	16.8	7.5		口縁部：なで　胴部：削り？	なで	
93	覆土	土師器	壺	－	16.4	－	－		口縁部：なで　頸～胴部：はけめ→縦・斜磨き	なで	
94	覆土	土師器	鉢	9/10	10.9	12.6	6.5		縦・斜磨き	口縁～頸部：横磨き、黒色処理　胴部：なで、黒色処理	
95	覆土	土師器	鉢	2/5	17.0	14.5	－		口縁部：なで　胴部：縦磨き	口縁部：なで、黒色処理　胴部：磨き？、黒色処理	底部内面に指圧痕あり
96	覆土	土師器	甕	ほぼ完	18.7	24.6	7.4		口縁部：なで　胴部：はけめ→縦磨き	口縁部：なで→はけめ　胴部：なで	
SB－14（AIK）											
97	覆土	土師器	甕	2/3	17.9	23.4	－		なで、はけめ	なで、はけめ、削り？	
SB－15（AIK）											
1	覆土	土師器	坏	4/5	12.2	5.15	4.5		口縁部：なで　体部：磨き？	横磨き　黒色処理	
2	覆土	土師器	器台	7/10	8.9	－	－		受部：はけめ→磨き　脚部：磨き、透かし孔3	受部：磨き　脚部：なで	
3	覆土	土師器	台付甕	脚台部	－	－	9.3		はけめ、なで	はけめ→なで	
4	覆土	土師器	甕	－	－	－	7.5		削り	なで	底部外面に木葉痕あり
SB－16（AIK）											
98	覆土	土師器	甑	ほぼ完	18.1	10.3	5.0		口縁部：なで　胴部：磨き	なで→磨き	
99	覆土	土師器	甑	4/5	23.2	28.0	9.0		なで	なで	
100	覆土	土師器	坏	完	15.0	4.6	－		口縁部：横磨き　体部：削り	横磨き	
101	覆土	土師器	坏	3/5	16.3	4.4	－		横磨き	横磨き、黒色処理	
102	覆土	土師器	坏	ほぼ完	17.0	4.1	－		横磨き	横磨き、黒色処理	

№	出土位置	種別	器種	遺存度	法量（cm）			成形・調整等		特記
					口径	器高	底径	外面	内面	
103	覆土	土師器	坏	ほぼ完	16.0	4.3	－	口縁部：横磨き　体部：削り	横磨き	
104	覆土	土師器	坏	3/5	16.1	4.8	－	横磨き	横磨き	
105	覆土	土師器	坏	4/5	13.5	8.0	－	横磨き	横磨き	
106	覆土	土師器	坏	3/5	14.7	4.9	－	横磨き	横磨き	
107	覆土	土師器	坏	ほぼ完	13.3	3.9	－	横磨き	横磨き	
108	覆土	土師器	坏	1/2	16.1	4.6	－	横磨き	横磨き、黒色処理	
109	覆土	土師器	坏	1/5	17.4	3.8	9.3	横磨き	横磨き	
110	覆土	土師器	坏	完	13.3	8.1	－	横磨き	横磨き、黒色処理	
111	覆土	土師器	坏	ほぼ完	16.2	4.9	－	口縁部：横磨き　体部：削り	横磨き	
112	覆土	土師器	坏	4/5	16.0	4.5	－	横磨き	横磨き	
113	覆土	土師器	坏	ほぼ完	12.1	6.5	－	横磨き	横磨き	
114	覆土	土師器	坏	7/10	15.5	－	－	横磨き	横磨き	
115	覆土	土師器	坏	7/10	15.1	4.4	7.5	口縁部：横磨き　体部：削り	横磨き	
116	覆土	土師器	坏	1/2	14.6	6.0	－	横磨き	横磨き	
117	覆土	土師器	坏	2/5	17.0	－	－	横磨き	横磨き、黒色処理	
118	覆土	土師器	坏	1/2	15.1	－	－	横磨き	横磨き	
119	覆土	土師器	坏	2/5	14.6	6.2	－	横磨き	横磨き	
120	覆土	須恵器	壺	ほぼ完	10.8	11.2	－	ろくろなで　胴部：かきめ　底部：回転削り	ろくろなで	
121	覆土	土師器	鉢	2/3	10.4	10.3	－	横磨き	横磨き	
122	覆土	土師器	鉢	3/10	16.0	12.4	7.9	口縁～胴部：横・斜磨き　底部：削り	なで、横磨き	
123	覆土	土師器	壺	4/5	11.2	16.8	8.1	胴部：縦磨き	胴部：横磨き　底部：なで	
124	覆土	土師器	甕	3/5	14.1	17.9	6.5	口縁部：なで　胴部：はけめ、削り	胴部：はけめ	
125	覆土	土師器	甕	4/5	16.0	15.1	8.0	口縁部：なで　胴部：はけめ	なで	
126	覆土	土師器	甕	ほぼ完	15.3	20.6	6.6	口縁部：なで　胴部：斜磨き	口縁部：横磨き　胴部：斜磨き　底部：なで	
127	覆土	土師器	甕	9/10	16.7	20.7	7.4	はけめ	口縁部：なで　胴部：はけめ	
128	覆土	土師器	甕	ほぼ完	13.7	20.6	7.8	口縁部：はけめ→なで　胴部：はけめ	なで	底部外面に木葉痕あり
129	覆土	土師器	甕	－	19.2	－	－	口縁部：なで　胴部：はけめ	口縁部：はけめ　胴部：なで	
130	覆土	土師器	甕	－	15.4	－	－	口縁部：はけめ→なで　胴部：はけ	なで	
131	覆土	土師器	甕	口縁部	15.4	－	－	はけめ→なで	はけめ	
132	覆土	土師器	甕	－	15.2	－	－	口縁部：はけめ→なで　胴部：はけめ	なで	
133	覆土	土師器	甕	底部	－	－	8.9	はけめ	なで、はけめ	
134	覆土	土師器	甕	底部	－	－	6.0	はけめ、削り	なで、はけめ	
135	覆土	土師器	甕	9/10	16.3	33.0	6.0	口縁部：なで　胴部：はけめ	口縁部：なで　胴部：はけめ	
136	覆土	土師器	壺	ほぼ完	14.9	29.9	7.5	口縁部：横磨き　胴部：縦・斜磨き	口縁部：横磨き　胴部：なで	胴部に焼成後穿孔あり
137	覆土	土師器	壺	7/10	16.6	26.6	8.5	口縁部：なで　胴上半部：はけめ　胴下半部：なで、削り？	なで	
138	覆土	土師器	壺	3/5	13.9	22.7	6.0	口縁部：横磨き　胴部：縦磨き	口縁部：斜磨き　胴部：なで	
140	覆土	土師器	壺	－	－	－	8.5		なで	
ＳＢ－17（Ｂ区）										
211	覆土	土師器	坏	1/2	9.4	2.7	4.2	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
212	覆土	土師器	皿	ほぼ完	10.0	1.7	6.8	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	

No.	出土位置	種別	器種	遺存度	法量（cm）			成形・調整等		特記
					口径	器高	底径	外面	内面	
ＳＢ－18（BK）										
139	覆土	土師器	甕	1/2	15.0	－	－	なで	なで	
ＳＢ－19（BK）										
141	覆土	土師器	坏	1/2	16.0	4.5	9.8			
142	覆土	土師器	坏	4/5	11.4	4.1	3.1	磨き？	なで？	
143	覆土	土師器	鉢	1/3	13.0	－	－	磨き？	横磨き？	
144	覆土	土師器	甕	2/3	17.7	－	－	なで→ほけめ	口縁部：ほけめ→なで　胴部：なで	
145	覆土	土師器	高坏	脚部	－	－	－	縦磨き、透かし孔4		
146	覆土	土師器	甕	1/3	17.2	－	－	なで		
147	覆土	土師器	甕	1/2	－	－	9.5	なで？	なで	
148	覆土	土師器	甕	9/10	16.6	32.7	7.9	なで→ほけめ	なで	
ＳＢ－21（CK）										
149	覆土	土師器	坏	4/5	10.5	4.8	－		磨き、黒色処理	
150	覆土	土師器	高坏	脚部	－	－	－	縦磨き	なで	坏部内面に稲籾圧痕あり
151	覆土	土師器	高坏	坏部	－	－	－			
152	覆土	土師器	高坏	坏部	15.0	－	－	口縁部：ほけめ→なで？　体部：縦磨き	ほけめ→なで	
153	覆土	土師器	高坏	脚部	－	－	13.0		坏部：磨き　脚部：なで	
154	覆土	土師器	高坏	2/5	－	－	－	磨き？	脚部：ほけめ→なで	
155	覆土	土師器	甕	底部	－	－	7.0	ほけめ	なで	
156	覆土	土師器	鉢	2/5	15.0	9.5	6.2	斜磨き	横・斜磨き、黒色処理	
157	覆土	土師器	甕	3/5	16.3	16.8	8.5	口縁部：削り　頸部：沈線　胴部：なで	なで	
158	覆土	土師器	甕	1/3	20.0	－	－	なで、ほけめ	なで、ほけめ	
159	覆土	土師器	甕	1/2	18.2	－	－	なで→ほけめ	ほけめ	煤付着
ＳＫ－6（AK）										
213	覆土	土師器	椀	9/10	14.7	5.7	8.8	ろくろなで　底部：回転糸切り→回転なで	磨き、黒色処理	
214	覆土	土師器	坏	完	12.6	3.1	5.0	ろくろなで	ろくろなで	煤付着？
215	覆土	土師器	坏	7/10	11.9	3.7	4.4	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで　底部：指圧痕	
216	覆土	土師器	坏	完	11.8	3.2	4.4	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
217	覆土	土師器	坏	7/10	13.3	4.4	4.8	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで　底部：指圧痕	
218	覆土	土師器	坏	3/5	11.3	3.4	4.0	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
219	覆土	土師器	坏	完	13.2	4.0	5.1	ろくろなで	ろくろなで　底部：指圧痕	
220	覆土	土師器	坏	ほぼ完	11.9	3.4	5.0	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで　底部：指圧痕	
221	覆土	土師器	坏	3/5	11.8	3.1	4.1	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
222	覆土	土師器	坏	3/5	13.7	3.9	5.0	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
223	覆土	土師器	坏	ほぼ完	11.9	3.5	4.6	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで　底部：指圧痕	
224	覆土	土師器	坏	4/5	11.9	3.8	4.9	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
225	覆土	土師器	坏	4/5	11.8	3.1	4.3	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
ＳＫ－11（AK）										
226	覆土	土師器	坏	7/10	11.8	3.9	5.3	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで　底部：指圧痕	
227	覆土	須恵器	坏	2/5	12.8	4.1	5.6	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
228	覆土	須恵器	坏	3/5	12.8	3.5	6.0	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
229	覆土	土師器	坏	9/10	13.3	4.1	6.0	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	

No.	出土位置	種別	器種	遺存度	法量（cm）			成形・調整等		特記
					口径	器高	底径	外面	内面	
230	覆土	須恵器	坏	2/5	13.8	4.1	6.1	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	体部外面に墨書あり
231	覆土	須恵器	坏	完	13.8	4.0	6.0	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
ＳＫ－12（AK）										
232	覆土	土師器	坏	1/2	13.6	4.3	6.0	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで　底部：指圧痕	
ＳＫ－15（AK）										
160	覆土	土師器	高坏	脚部	－	－	12.8	縦磨き	なで	
163	覆土	土師器	坏	3/5	13.0	－	－	横磨き	横磨き	底部焼成後穿孔？
ＳＫ－16（AK）										
162	覆土	土師器	甕	－	15.2	－	－	口縁部：なで　胴部：はけめ	口縁部：はけめ　胴部：なで	
ＳＫ－18（AK）										
233	覆土	土師器	甕	口縁部	17.6	－	－	なで、はけめ	なで	
ＳＫ－23（AK）										
236	覆土	須恵器	坏	9/10	10.4	3.8	6.6	ろくろなで、回転削り　底部：回転削り	なで	底部外面にへら記号あり
ＳＫ－24（AK）										
165	覆土	土師器	高坏	脚部	－	－	9.4	はけめ、なで	はけめ	
ＳＫ－25（AK）										
237	覆土	土師器	皿	3/5	8.6	1.9	3.8	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
238	覆土	土師器	皿	3/5	9.2	1.8	4.0	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
239	覆土	土師器	皿	1/2	10.6	－	－	ろくろなで、横磨き、黒色処理	横磨き	高台欠損
ＳＫ－26（AK）										
234	覆土	土師器	坏	3/5	12.3	3.45	5.0	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
235	覆土	土師器	坏	完	12.2	3.4	6.0	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
ＳＫ－28（AK）										
240	覆土	須恵器	擂鉢	底部	－	－	12.0	底部：静止糸切り	擂ろし目	珠洲焼系陶器、自然釉
241	覆土	土師器	坏	3/5	10.2	2.4	4.7	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
242	覆土	土師器	坏	1/2	9.9	2.3	4.2	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
ＳＫ－30（AK）										
243	覆土	土師器	坏	2/5	13.6	3.6	5.1	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
244	覆土	土師器	椀	2/5	15.6	－	－	ろくろなで　底部：回転糸切り→回転なで	磨き、黒色処理	高台欠損
245	覆土	土師器	坏	3/10	11.0	3.3	4.3	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
246	覆土	土師器	坏	ほぼ完	10.2	2.1	5.8	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
247	覆土	土師器	皿	3/5	16.4	4.2	8.0	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
ＳＫ－32（CK）										
248	覆土	灰釉陶器	－	底部	－	－	8.0	ろくろなで　底部：回転糸切り→回転削り		朱墨転用硯
ＳＫ－33（AK）										
249	覆土	土師器	坏	完	9.5	2.45	4.0	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
259	覆土	土師器	坏	2/5	15.4	5.8	6.0	ろくろなで、回転削り　底部：回転削り	横磨き、黒色処理	
ＳＫ－37（AK）										
253	覆土	土師器	坏	4/5	13.9	3.6	6.5	ろくろなで　底部：回転糸切り	磨き、黒色処理	
ＳＫ－42（AK）										
250	覆土	土師器	坏	9/10	10.6	3.3	5.0	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	

No.	出土位置	種別	器種	遺存度	法量（cm）			成形・調整等		特記
					口径	器高	底径	外面	内面	
SK－46（AIK）										
5	覆土	土師器	甕	－	14.6	－	－	口縁部：なで　胴部：はけめ	なで	
6	覆土	土師器	台付甕	脚台部	－	－	6.9	はけめ	はけめ	
164	覆土	土師器	高坏	脚部	－	－	11.5	脚部：縦磨き　脚裾部：横磨き	なで	
166	覆土	土師器	壺	－	18.0	－	－	口縁部：なで　胴部：はけめ	なで	
SK－53（AIK）										
161	覆土	土師器	高坏	脚部	－	－	15.2	脚部：縦磨き　脚裾部：横磨き	なで	
SK－57（AIK）										
263	覆土	須恵器	瓶	－	－	－	－	格子たたき目	同心円文	
SK－59（AIK）										
251	覆土	土師器	高坏	1/5	－	－	10.4	縦磨き	坏部：磨き、黒色処理　脚部：なで	
261	覆土	埴輪陶器	段黒	9/10	19.2	3.3	9.1	ろくろなで、回転削り　底部：削り、なで	ろくろなで	つけ掛け軸
SK－62（AIK）										
167	覆土	土師器	坏	1/2	12.0	－	－	口縁部：横磨き　体部：縦磨き	口縁部：横磨き　体部：縦磨き	
SK－70（AIK）										
252	覆土	土師器	坏	4/5	14.1	6.0	4.6	横磨き	横磨き	
256	覆土	土師器	坏	2/5	12.3	5.1	－	横磨き	はけめ→横磨き、黒色処理	
SK－71（AIK）										
7	覆土	土師器	鉢	3/5	21.0	9.8	6.0	はけめ→斜磨き	はけめ→斜磨き	
8	覆土	土師器	器台	7/10	9.7	8.8	12.5	受部：なで、縦磨き　脚部：縦磨き、透かし孔3	受部：磨き　脚部：はけめ、なで	
9	覆土	土師器	壺	－	17.0	－	－	口縁部：なで　頸部：はけめ、粘土帯貼付		
10	覆土	土師器	壺	－	18.1	－	－	刺突文	横磨き	
11	覆土	土師器	台付甕	1/2	15.6	30.1	9.8	口縁：なで　胴～脚部：はけめ	なで	
SK－73（AIK）										
254	覆土	須恵器	坏	1/2	12.6	3.8	9.2	ろくろなで　底部：回転糸切り→回転削り	ろくろなで	
SK－78（BIK）										
257	覆土	須恵器	坏	完	13.3	3.7	6.1	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	生焼け
SK－93（BIK）										
12	覆土	土師器	壺	口縁部	9.2	－	－	なで？	なで？	
13	覆土	土師器	器台	受部	7.0	－	－	はけ？→磨き	磨き？	
14	覆土	土師器	器台	脚部	－	－	－	はけ→磨き？、透かし孔3		
15	覆土	土師器	壺	口縁部	11.6	－	－	口縁部：はけ→横および縦磨き　胴部：はけ	なで→横・斜磨き	
16	覆土	土師器	器台	受部	7.9	－	－	はけ？→磨き	磨き？	
17	覆土	土師器	壺	1/2	－	－	－	はけ	はけ、なで	
18	覆土	土師器	壺	4/5	9.4	11.3	4.7	はけ　底部：なで？	口縁～頸部：はけ→なで　胴部：はけ？	
19	覆土	土師器	甕	1/3	－	－	7.6	縦磨き	はけ	
20	覆土	土師器	壺	2/3	17.0	－	－	はけ→なで　頸部：粘土帯貼り付け、刺突文	横磨き	
21	覆土	土師器	甕	1/3	13.5	－	－	口縁部：はけ→なで　胴部：はけ	口縁部：はけ→なで　胴部：はけ？	
22	覆土	土師器	壺	1/3	16.7	－	－	口縁～頸部：はけ→なで　胴部：はけ	口縁～頸部：はけ→なで　胴部：はけ？	
23	覆土	土師器	甕	1/2	17.2	－	－	口縁部：はけ→なで　胴部：はけ	なで	
24	覆土	土師器	甕	2/3	13.4	－	－	口縁部：なで　胴部：はけ	なで	

№	出土位置	種別	器種	遺存度	法量（cm）			成形・調整等		特記
					口径	器高	底径	外面	内面	
ＳＫ－95（Ｂ区）										
25	覆土	土師器	器台	4/5	7.5	7.5	9.4	なで、透かし孔3	なで	
26	覆土	土師器	器台	ほぼ完	8.5	6.3	8.1	なで、はけ	なで？	
27	覆土	土師器	高坏	脚部	－	－	－	はけ、透かし孔６		
28	覆土	土師器	鉢	ほぼ完	7.5	4.4	－	なで、はけ	なで	
29	覆土	土師器	鉢	ほぼ完	8.1	5.8	4.9	なで	なで	
30	覆土	土師器	鉢	ほぼ完	8.5	9.8	3.6	なで、はけ	口縁部：はけ→なで　体部：なで	
31	覆土	土師器	鉢	9/10	10.0	10.0	3.6	なで　底部：削り？	なで	
32	覆土	土師器	壺	1/2	10.0	－	－	なで、はけ？	なで？	
33	覆土	土師器	甕	1/3	14.5	－	－	なで、はけ	口縁部：はけ→なで　胴部：なで	
34	覆土	土師器	台付甕	2/3	11.2	15.4	7.4	口縁部:なで→はけ　胴部:削り　脚部：なで	なで	
35	覆土	土師器	壺	－	－	－	－	なで、刺突文	なで？	
ＳＫ－108（Ｃ区）										
168	覆土	土師器	甕	口縁部	26.6	－	－		なで	
169	覆土	土師器	甕	2/5	17.5	25.3	5.8	はけ、削り　底部：削り	なで、はけ	
ＳＫ－117（Ｃ区）										
258	覆土	土師器	坏	9/10	12.6	3.6	5.0	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
260	覆土	土師器	坏	1/2	12.8	3.6	5.3	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
ＳＫ－124（Ｃ区）										
170	覆土	土師器	高坏	坏部	15.0	－	－	なで→横磨き	口縁部：なで→横磨き　体部：なで→縦磨き	
ＳＫ－127（Ｃ区）										
262	覆土	土師器	坏	1/2	10.5	2.8	2.8	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
ＳＫ－130（Ｃ区）										
255	覆土	土師器	坏	ほぼ完	14.4	4.9	6.7	ろくろなで　底部：削り	磨き、黒色処理	
ＳＫ－132（Ｃ区）										
171	覆土	土師器	高坏	脚部	－	－	－	なで→磨き	なで	
264	覆土	須恵器	坏	－	－	－	－	ろくろなで	ろくろなで	外面側位に墨書あり
265	覆土	土師器	坏	2/3	12.4	3.4	5.0	ろくろなで　底部：回転糸切り	磨き	
266	覆土	土師器	坏	2/3	12.4	3.6	4.4	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
267	覆土	土師器	坏	ほぼ完	12.4	3.6	6.0	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
268	覆土	土師器	坏	1/2	12.1	3.2	5.0	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
269	覆土	土師器	坏	1/2	12.0	3.6	4.6	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	内面部分的に剥離する
270	覆土	土師器	坏	3/4	12.1	3.4	4.8	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
271	覆土	土師器	坏	9/10	13.7	4.4	6.2	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
272	覆土	土師器	椀	5/6	12.8	4.8	6.5	ろくろなで　底部：回転糸切り	磨き、暗文、黒色処理	
273	覆土	土師器	坏	1/2	16.3	5.1	8.0	ろくろなで、回転削り	磨き、黒色処理	
274	覆土	土師器	椀	ほぼ完	11.4	4.6	5.6	ろくろなで　底部：回転糸切り	磨き、暗文、黒色処理	
275	覆土	土師器	椀	2/3	11.9	4.6	5.2	ろくろなで　底部：回転糸切り	磨き、黒色処理	
276	覆土	須恵器	坏	ほぼ完	11.7	3.3	4.3	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	粗雑なつくり、生焼け
ＳＫ－133（Ｃ区）										
280	覆土	土師器	皿	1/3	12.6	－	－	ろくろなで	磨き、黒色処理	高台欠損
281	覆土	須恵器	壺	1/2	－	－	7.2	ろくろなで	ろくろなで	自然釉

No.	出土位置	種別	器種	遺存度	法量（cm）			成形・調整等		特記
					口径	器高	底径	外面	内面	
ＳＫ－135（Ｃ区）										
277	覆土	土師器	坏	1/3	14.7	－	－	ろくろなで、削り	磨き、黒色処理	
ＳＫ－136（Ｃ区）										
278	覆土	須恵器	坏	5/6	13.5	4.1	6.3	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
ＳＫ－137（Ｃ区）										
279	覆土	須恵器	坏	3/4	12.5	3.5	6.2	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	外面に墨痕あり？
282	覆土	須恵器	坏	5/6	12.0	3.2	5.0	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	外面側位に墨書あり、生焼け
ＳＤ－4（ＡＢ区）										
283	覆土	土師器	坏	1/2	15.8	5.4	6.6	ろくろなで、削り　底部：削り	磨き、黒色処理	
284	覆土	土師器	坏	1/4	16.0	5.8	6.8	ろくろなで、削り　底部：削り	磨き、黒色処理	
ＳＤ－6（ＡＢ区）										
172	覆土	土師器	高坏	脚部	－	－	12.0	脚部：縦磨き　脚裾部：なで	脚部：削り　脚裾部：なで	
285	覆土	土師器	坏	9/10	12.6	3.5	5.4	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで　底部：指圧痕	
286	覆土	土師器	坏	ほぼ完	11.2	3.6	4.0	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで　底部：指圧痕	
287	覆土	土師器	坏	ほぼ完	13.1	3.6	6.4	ろくろなで　底部：回転糸切り	磨き、黒色処理	
288	覆土	土師器	坏	1/2	10.6	2.9	4.2	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
289	覆土	土師器	坏	2/5	11.9	3.8	4.6	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで　底部：指圧痕	
290	覆土	土師器	坏	2/5	13.0	3.0	5.1	ろくろなで　底部：回転糸切り	磨き、黒色処理	
291	覆土	土師器	坏	3/10	13.8	3.7	6.0	ろくろなで　底部：回転糸切り	磨き、黒色処理	
292	覆土	須恵器	壺	1/5	－	－	10.0	ろくろ、回転削り　底部：回転削り	ろくろなで	
ＳＤ－9（ＡＢ区）										
293	覆土	須恵器	坏	2/5	13.4	4.2	6.4	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
294	覆土	土師器	椀	完	14.4	5.4	6.4	ろくろなで　底部：回転糸切り	磨き、黒色処理	
ＳＤ－10（ＡＢ区）										
295	覆土	土師器	坏	4/5	12.3	3.3	5.5	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
296	覆土	土師器	坏	4/5	13.0	3.8	5.0	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
ＳＤ－11（ＡＢ区）										
297	覆土	土師器	坏	7/10	12.5	3.7	5.0	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
ＳＤ－12（ＡＢ区）										
298	覆土	土師器	椀	9/10	15.4	5.9	7.8	ろくろなで　底部：回転糸切り	磨き、黒色処理	
299	覆土	土師器	坏	1/2	11.0	3.6	5.0	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
300	覆土	土師器	坏	完	11.4	3.4	4.7	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
ＳＤ－25（ＢＢ区）										
301	覆土	土師器	坏	5/6	13.0	4.2	6.6	ろくろなで　底部：回転糸切り	磨き、黒色処理	
ＳＤ－29（Ｃ区）										
174	覆土	土師器	高坏	脚部	－	－	15.3	なで→縦磨き	なで、削り	
ＳＤ－30（Ｃ区）										
36	覆土	弥生土器	甕	頸部	－	－	－	口縁部：擬円線文　胴部：刺突文	なで	北陸系土器
ＳＤ－31（Ｃ区）										
173	覆土	土師器	高坏	坏部	－	－	－	なで、磨き？	横磨き	

№	出土位置	種別	器種	遺存度	法量（cm）			成形・調整等		特記
					口径	器高	底径	外面	内面	
ＳＤ－34（Ｃ区）										
302	覆土	土師器	坏	3/4	11.2	3.8	4.5	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
303	覆土	土師器	坏	ほぼ完	12.2	3.1	5.0	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで、磨き	
304	覆土	土師器	坏	3/4	13.4	3.5	4.5	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
305	覆土	土師器	椀	2/3	14.2	5.6	7.2	ろくろなで	磨き、黒色処理	
306	覆土	瓦釉陶器	皿	3/4	12.4	2.3	6.6	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	釉つけ掛け
307	覆土	土師器	－	1/2	－	－	2.8	なで、削り、磨き、黒色処理	磨き、黒色処理	
ＳＤ－38（Ｃ区）										
175	覆土	土師器	甕	4/5	－	－	6.4	胴部：ほけ→なで　底部：削り→なで	なで	
308	覆土	土師器	甕	口縁部	12.0	－	－	ろくろなで	ろくろなで	
309	覆土	瓦釉陶器	皿	1/3	14.0	3.1	5.8	ろくろなで、削り　底部：回転糸切り→回転削り	ろくろなで	釉つけ掛け
ＳＤ－42（Ｃ区）										
181	覆土	土師器	はそう	ほぼ完	6.9	9.6	－	なで	なで	
Pit－37（Ｃ区）										
178	覆土	土師器	坏	1/3	12.2	5.1	－			
Pit－76（Ｃ区）										
310	覆土	瓦釉陶器	椀	1/2	13.5	4.1	7.2	ろくろなで　底部：回転糸切り→なで？	ろくろなで	釉つけ掛け
311	覆土	瓦釉陶器	椀	1/2	12.7	4.4	6.3	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	釉つけ掛け
Pit－179（Ｃ区）										
180	覆土	土師器	高坏	坏部	15.7	－	－	なで→縦磨き	なで→縦磨き	外面に焼成前線刻あり
Pit－262（Ｃ区）										
312	覆土	土師器	坏	完	10.9	3.2	4.4	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
Pit－264（Ｃ区）										
176	覆土	土師器	甕	1/3	16.2	－	－	口縁部：ほけ→なで　胴部：ほけ	口縁部：なで　胴部：ほけ	
179	覆土	土師器	高坏	脚部	－	－	10.0	縦磨き	坏部：磨き、黒色処理　脚部：なで	
ＳＸ－1・2・5・6										
177	覆土	土師器	高坏	脚部	－	－	13.3	なで→縦磨き	なで	
183	覆土	土師器	壺	1/4	23.4	－	－	ほけ→横磨き	ほけ→横磨き	
313	覆土	須恵器	坏	1/2	12.9	3.6	6.4	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
314	覆土	須恵器	坏	3/5	12.7	4.2	5.9	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
315	覆土	須恵器	坏	3/5	11.4	4.3	7.4	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
316	覆土	須恵器	坏	7/10	13.0	4.1	5.8	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
317	覆土	須恵器	坏	4/5	13.5	3.4	6.5	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
318	覆土	須恵器	坏	4/5	13.2	3.7	5.4	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
319	覆土	須恵器	坏	3/5	13.6	3.8	6.2	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	外面に墨書あり
320	覆土	土師器	坏	7/10	11.5	3.5	4.8	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
321	覆土	土師器	坏	1/2	13.3	4.5	6.2	ろくろなで　底部：回転糸切り→削り	磨き、黒色処理	
322	覆土	土師器	坏	1/2	14.4	5.3	5.8	ろくろなで　底部：回転糸切り	磨き、黒色処理	
323	覆土	須恵器	坏	1/2	13.4	4.2	5.8	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	底部外面にへら記号あり
324	覆土	土師器	坏	7/10	12.9	3.6	6.8	ろくろなで、削り　底部：回転糸切り→削り	磨き、黒色処理	
325	覆土	土師器	坏	9/10	16.2	6.5	7.2	ろくろなで、削り　底部：回転糸切り→削り	磨き、黒色処理	
326	覆土	土師器	高坏	坏部	11.8	－	－	なで、縦磨き	横・縦磨き	

№	出土位置	種別	器種	遺存度	法量（cm）			成形・調整等		特記
					口径	器高	底径	外面	内面	
327	覆土	土師器	坏	9/10	12.8	3.8	5.8	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
328	覆土	土師器	坏	3/5	17.9	5.2	7.6	ろくろなで　底部：回転糸切り→一部削り	磨き、黒色処理	
329	覆土	土師器	椀	7/10	11.4	4.6	6.4	ろくろなで　底部：回転糸切り	磨き、黒色処理	
330	覆土	土師器	甕	3/5	12.2	15.1	5.7	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
331	覆土	土師器	坏	7/10	13.8	4.8	5.7	ろくろなで、削り　底部：回転糸切り→削り	磨き、黒色処理	外面に墨書あり
ＳＸ－3（C区）										
332	覆土	須恵器	坏	1/2	12.9	3.8	5.8	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
333	覆土	須恵器	坏	4/5	13.1	3.5	5.8	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
334	覆土	須恵器	坏	1/2	13.0	3.6	5.4	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
335	覆土	土師器	坏	2/3	12.8	4.1	5.5	ろくろなで　底部：回転糸切り	磨き、黒色処理	
336	覆土	土師器	坏	ほぼ完	12.3	3.5	5.2	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
337	覆土	土師器	坏	2/3	16.2	6.0	6.2	ろくろなで	磨き、黒色処理	表面が剥離する
338	覆土	土師器	坏	1/2	12.2	5.1	－	はけ	磨き、黒色処理	
339	覆土	土師器	皿	1/3	11.8	－	－	ろくろなで、横磨き、黒色処理　底部：回転糸切り	磨き、黒色処理	高台欠損
ＳＸ－7（C区）										
340	覆土	須恵器	坏	完	12.6	3.6	4.9	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	粗雑なつくり、生焼け
341	覆土	須恵器	坏	ほぼ完	12.3	3.7	4.9	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	粗雑なつくり、生焼け
342	覆土	土師器	坏	ほぼ完	12.5	3.6	4.2	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
343	覆土	土師器	坏	2/3	13.0	3.4	5.1	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
344	覆土	土師器	坏	ほぼ完	11.1	3.4	4.2	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
345	覆土	土師器	坏	1/2	12.9	3.7	5.0	ろくろなで　底部：回転糸切り	磨き、黒色処理	
346	覆土	土師器	坏	4/5	12.4	3.8	5.1	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
347	覆土	土師器	坏	5/6	12.5	3.2	4.5	ろくろなで　底部：回転糸切り	黒色処理	
348	覆土	土師器	坏	1/3	13.4	3.4	4.8	ろくろなで　底部：回転糸切り	磨き、黒色処理	
349	覆土	土師器	坏	5/6	13.4	4.2	5.0	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
350	覆土	土師器	坏	3/4	12.0	3.5	4.8	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
351	覆土	土師器	坏	5/6	12.9	3.9	5.2	ろくろなで　底部：回転糸切り	磨き、黒色処理	
352	覆土	土師器	坏	完	12.0	3.4	5.4	ろくろなで　底部：回転糸切り	磨き、黒色処理	
353	覆土	土師器	坏	5/6	12.4	4.0	4.6	ろくろなで　底部：回転糸切り	黒色処理	
354	覆土	土師器	坏	1/2	12.9	3.6	5.1	ろくろなで　底部：回転糸切り	磨き、黒色処理	
355	覆土	土師器	坏	完	12.5	3.6	4.9	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
356	覆土	土師器	坏	ほぼ完	12.8	3.4	4.8	ろくろなで　底部：回転糸切り	黒色処理	
357	覆土	土師器	坏	1/2	12.6	3.9	4.6	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
358	覆土	土師器	坏	9/10	11.6	3.0	5.5	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
359	覆土	土師器	坏	ほぼ完	11.9	3.3	4.7	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
360	覆土	土師器	坏	1/2	13.0	3.8	5.0	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	内外面に黒褐色付着物あり
361	覆土	土師器	坏	1/2	15.2	4.3	4.8	ろくろなで　底部：回転糸切り	磨き、黒色処理	
362	覆土	土師器	坏	1/3	15.0	4.1	5.2	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
363	覆土	土師器	坏	3/4	15.6	4.8	5.9	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
364	覆土	土師器	椀	2/3	14.0	4.6	6.3	ろくろなで　底部：回転糸切り	黒色処理	
365	覆土	灰釉陶器	椀	2/5	15.0	5.1	8.2	ろくろなで、削り	ろくろなで	つけ掛け釉
366	覆土	灰釉陶器	－	底部	－	－	7.8	ろくろなで　底部：回転糸切り→回転削り		転用硯

No.	出土位置	種別	器種	遺存度	法量（cm）			成形・調整等		特記
					口径	器高	底径	外面	内面	
367	覆土	土師器	長頸壺	9/10	－	－	7.0	ろくろなで	ろくろなで	
368	覆土	灰釉陶器	瓶？	2/3	－	－	14.1	ろくろなで　底部：回転糸切り→回転削り？	ろくろなで	自然釉？
369	覆土	土師器	壺	ほぼ完	5.0	4.9	3.9	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	外面に焼成前へら書きあり
370	覆土	土師器	甕	1/2	7.5	5.2	4.1	ろくろなで、削り　底部：回転糸切り→削り	ろくろなで	
包含層・検出面（A・B・C区）										
37	A検出	土師器	壺	口縁部	15.0	－	－	口縁部：はけめ→横磨き、柯突文　頸部：はけめ→縦磨き	口縁部：横・斜磨き　頸部：はけめ→なで	
38	A検出	土師器	鉢	2/3	18.8	－	－	口縁部：折り返し、なで　体部：はけめ	なで？	
182	A検出	土師器	壺	1/3	22.1	－	－	磨き	磨き	
184	A検出	土師器	高坏	坏部	16.8	－	－	はけめ	はけめ	
185	A検出	土師器	高坏	坏部	16.6	－	－	縦磨き	磨き	
186	A検出	土師器	坏	1/2	13.0	5.45	－	口縁部：横磨き　体部：縦磨き	口縁部：横磨き　体部：縦磨き	
187	C検出	土師器	坏	2/3	10.6	6.4	－	横磨き	横磨き	
188	A検出	土師器	坏	4/5	14.5	5.3	4.0	横磨き	横磨き	
189	A検出	土師器	坏	4/5	11.8	5.2	－			底部外面にへら記号あり
190	A検出	土師器	鉢	1/2	12.0	13.4	－	縦磨き	横磨き、黒色処理	
191	A検出	土師器	鉢	4/5	11.1	12.4	4.8	口縁～体部：縦磨き　底部：削り	横磨き、黒色処理	
192	C検出	土師器	鉢	1/2	10.3	－	－	横・斜磨き	横・斜磨き	
193	A検出	土師器	甕	－	－	－	－			
194	A検出	土師器	瓶	1/2	14.7	12.3	4.8	口縁部：なで　胴部：削り	黒色処理　口縁部：なで　胴部：はけめ	
195	C検出	土師器	瓶	底部	－	－	5.2	磨き	なで	
196	A検出	土師器	瓶	1/4	19.4	23.5	10.4	口縁部：横磨き　胴部：はけめ→縦磨き	口縁部：横磨き　胴部：はけめ→縦磨き	
197	A検出	土師器	器台	脚部	－	－	9.7	はけめ	はけめ→なで	
198	A検出	土師器	高坏	脚部	－	－	6.6	縦磨き	なで	
199	A検出	土師器	高坏	脚部	－	－	11.9	脚部：縦磨き　脚裾部：磨き	なで	
200	A検出	土師器	台付甕	脚台部	－	－	10.0	はけめ	なで	
201	A検出	土師器	台付甕	脚台部	－	－	10.4		なで	
202	C検出	土師器	甕	口縁部	21.4	－	－	はけ→なで	口縁部：なで　胴部：はけ→へら削り	
203	C検出	土師器	甕	底部	－	－	－	縦磨き	はけ→なで	
204	A検出	土師器	甕	－	－	－	6.2	磨き	はけめ	
371	A検出	須恵器	蓋	3/10	13.8	2.6	－	ろくろなで　回転削り	ろくろなで	
372	A検出	土師器	皿	2/3	9.0	2.4	3.6	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
373	A検出	須恵器	坏	3/5	12.0	3.95	7.7	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
374	A検出	須恵器	坏	1/2	12.8	4.2	9.2	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
375	C検出	須恵器	坏	1/2	15.0	4.2	11.0	ろくろなで　底部：回転糸切り→回転削り	ろくろなで	底部外面にへら記号あり
376	C検出	須恵器	坏？	底部	－	－	6.1	ろくろなで　底部：回転糸切り？	ろくろなで	
377	A検出	須恵器	坏？	－	－	－	－	ろくろなで	ろくろなで	外面に墨書あり
378	A検出	須恵器	坏	1/2	13.4	3.6	6.0	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
379	A検出	須恵器	坏	7/10	12.3	3.8	6.2	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
380	A検出	須恵器	坏	2/5	12.8	3.6	5.6	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
381	A検出	須恵器	坏	3/10	12.9	4.2	6.3	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
382	A検出	須恵器	坏	5/6	13.1	4.0	6.9	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	

No.	出土位置	種別	器種	遺存度	法量（cm）			成形・調整等		特記
					口径	器高	底径	外面	内面	
383	C検出	須恵器	坏	1/2	13.1	3.5	6.0	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
384	A検出	須恵器	坏	5/6	13.4	3.7	7.1	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
385	C検出	須恵器	坏	1/2	13.0	3.8	5.8	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
386	A検出	須恵器	坏	2/5	12.3	4.2	7.2	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	火襷痕あり
387	A検出	須恵器	坏	2/5	13.6	4.2	6.4	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
388	C検出	須恵器	坏	3/5	13.0	3.9	5.9	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
389	C検出	須恵器	坏	1/2	13.1	4.1	6.3	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
390	A検出	土師器	坏	3/5	11.6	3.6	4.5	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
391	A検出	土師器	坏	ほぼ完	11.3	3.1	5.7	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
392	A検出	土師器	坏	3/5	10.8	3.4	4.1	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
393	A検出	土師器	坏	3/4	11.4	3.1	4.2	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
394	A検出	土師器	坏	1/2	12.0	3.4	4.7	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
395	A検出	土師器	坏	完	12.2	3.4	5.0	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
396	A検出	土師器	坏	7/10	12.1	3.7	4.6	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
397	A検出	土師器	坏	2/5	11.6	3.1	4.3	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
398	A検出	土師器	坏	1/2	10.0	2.4	4.5	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
399	A検出	土師器	坏	3/10	11.8	3.7	4.8	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
400	A検出	土師器	坏	1/2	11.5	3.2	4.9	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
401	A検出	土師器	坏	ほぼ完	10.6	2.6	4.0	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
402	A検出	土師器	坏	4/5	11.5	3.5	4.7	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで、指圧痕	
403	A検出	土師器	坏	1/2	11.7	3.6	5.5	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
404	A検出	土師器	坏	2/3	11.4	3.35	4.1	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
405	A検出	土師器	坏	4/5	13.0	4.0	6.2	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
406	A検出	土師器	坏	1/2	11.0	3.2	4.2	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
407	A検出	土師器	坏	完	10.5	2.5	4.7	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
408	A検出	土師器	坏	3/4	11.0	3.0	4.0	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
409	A検出	土師器	坏	1/2	10.8	3.25	4.5	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
410	A検出	土師器	坏	3/5	13.0	3.3	4.8	ろくろなで　底部：回転糸切り	磨き、黒色処理	
411	A検出	土師器	坏	5/6	11.6	3.8	5.4	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
412	A検出	土師器	坏	2/5	13.0	3.4	5.4	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
413	A検出	土師器	坏	1/2	12.9	3.4	4.8	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
414	A検出	土師器	坏	5/6	10.7	3.0	4.1	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
415	A検出	土師器	坏	7/10	11.9	3.4	5.0	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
416	A検出	土師器	坏	ほぼ完	11.5	2.8	5.0	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
417	A検出	土師器	坏	1/2	10.2	3.3	4.9	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
418	A検出	土師器	坏	5/6	10.7	3.2	4.1	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
419	A検出	土師器	坏	1/2	11.8	3.5	5.0	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
420	A検出	土師器	坏	2/3	10.9	3.45	5.0	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
421	A検出	土師器	坏	完	13.7	3.5	6.0	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
422	A検出	土師器	坏	1/2	10.3	3.6	5.0	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
423	A検出	土師器	坏	1/2	12.4	3.85	4.7	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	

No.	出土位置	種別	器種	遺存度	法量（cm）			成形・調整等		特記
					口径	器高	底径	外面	内面	
424	A検出	土師器	坏	1/2	12.6	－	－	ろくろなで	ろくろなで	
425	A検出	土師器	坏	9/10	12.0	3.2	3.8	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
426	A検出	土師器	坏	2/3	12.8	3.9	5.4	ろくろなで　底部：回転糸切り	磨き、黒色処理	
427	A検出	土師器	坏	完	11.4	3.5	4.4	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
428	A検出	土師器	坏	4/5	11.6	3.2	5.4	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
429	A検出	土師器	坏	3/5	12.0	3.3	5.4	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
430	A検出	土師器	坏	1/3	12.2	3.5	5.9	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
431	A検出	土師器	坏	1/2	12.1	3.1	4.8	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
432	A検出	土師器	坏	1/2	11.0	3.4	4.9	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
433	A検出	土師器	坏	2/3	11.9	4.15	4.2	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
434	A検出	土師器	坏	2/3	14.2	4.4	6.8	ろくろなで、回転削り	磨き、黒色処理	
435	C検出	土師器	坏	1/2	12.5	4.2	4.4	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
436	A検出	土師器	坏	9/10	12.0	3.7	5.4	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
437	A検出	土師器	坏	1/3	13.4	4.4	5.5	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
438	A検出	土師器	坏	1/2	12.5	4.5	5.0	ろくろなで　底部：回転糸切り	磨き、黒色処理	
439	C検出	土師器	坏	7/10	14.8	4.4	5.8	ろくろなで、削り　底部：回転糸切り→削り	磨き、黒色処理	
440	C検出	土師器	坏	4/5	14.5	4.3	5.7	ろくろなで、削り　底部：回転糸切り→削り	磨き	
441	C検出	土師器	坏	ほぼ完	15.2	4.8	6.4	ろくろなで　底部：回転糸切り	磨き、黒色処理	
442	C検出	土師器	坏	2/3	15.4	5.9	6.5	ろくろなで　底部：回転糸切り	磨き、黒色処理	
443	C包含	土師器	坏	2/3	15.7	6.7	6.0	ろくろなで　削り　底部：削り	磨き、黒色処理	
444	A検出	土師器	椀	3/10	14.0	－	－	ろくろなで	磨き、黒色処理	高台欠損
445	A検出	土師器	椀	2/5	10.8	4.4	6.0	ろくろなで　底部：回転糸切り	横磨き、黒色処理	煤付着
446	A検出	土師器	椀	1/2	11.3	4.2	6.2	ろくろなで　底部：回転糸切り	磨き、黒色処理	
447	A検出	土師器	椀	1/2	12.9	4.6	6.7	ろくろなで　底部：回転糸切り	磨き、黒色処理	底部焼成後穿孔あり
448	A検出	土師器	椀	1/2	14.0	5.95	9.0	ろくろなで　底部：回転糸切り	磨き、黒色処理	
449	A検出	土師器	椀	3/5	10.5	4.5	5.5	ろくろなで　底部：回転糸切り	磨き、黒色処理	
450	A検出	土師器	椀	3/5	15.0	6.6	6.6	ろくろなで	磨き、黒色処理	
451	A検出	土師器	椀	3/10	－	－	7.5	ろくろなで　底部：回転糸切り	磨き、暗文、黒色処理	
452	A検出	土師器	盤	ほぼ完	8.7	3.2	5.7	ろくろなで	ろくろなで	
453	A検出	土師器	皿	ほぼ完	9.4	2.1	3.9	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	煤付着、灯明皿
454	C検出	土師器	皿	3/4	10.4	3.6	4.9	ろくろなで	ろくろなで	
455	C検出	須恵器	壺	底部	－	－	7.8	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	自然釉
456	A検出	土師器	椀	1/2	12.8	4.8	7.1	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
457	A検出	灰釉陶器	椀	1/10	16.8	6.2	8.1	ろくろなで、回転削り	ろくろなで	釉つけ掛け
458	A検出	緑釉陶器	椀	1/2	－	－	8.2	ろくろなで、磨き　底部：回転糸切り→回転削り	磨き	全面施釉
459	A検出	緑釉陶器	椀	底部	－	－	7.0	ろくろなで　底部：回転糸切り→回転削り	磨き	全面施釉
460	A検出	緑釉陶器	椀	3/4	13.3	5.0	6.7	ろくろなで　底部：回転糸切り→回転削り	ろくろなで	全面施釉
461	A検出	灰釉陶器	－	－	－	－	－			
462	C検出	土師器	壺	完	4.0	3.6	3.0	横磨き	なで？	
463	A検出	土師器	壺	3/5	7.9	5.7	4.6	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	
464	A検出	土師器	甕	－	16.3	－	－	口縁部：なで　胴部：はけめ→縦磨き	なで	
465	C検出	土師器	甕	2/3	－	－	7.3	ろくろなで　底部：回転糸切り	ろくろなで	

2　土製品（図67）

ミニチュア土器（1～6）　径は3が7㎝、1・5・6が5～5.5㎝、2・4が3.8㎝、器高は全体で3～4㎝。器壁は指痕を残すが、6では調整がみられる。

土製円板（7～13）　土器の転用と考えられる、周囲に加工が施されたもの。直径3.7～4.5㎝。

土玉（14）　径5.5×4.9㎝。全体に大きく歪んだ形をし、調整などはみられない。側面には黒斑がみられる。

紡錘車（15～17）15：径3.7㎝、器高3.3㎝。形は全体に丸い。裏面を中心に黒斑がみられる。16：径6.0㎝、器高3.8㎝。整った円錐形を呈する。17：径7.3㎝、器高2.9㎝。半分のみで円柱形に近い形態とみられる。

不明土製品（18）　残存量長さ32.5㎝、幅5.0㎝。凹凸のある形で縦半分に割れ、内外面には指痕を残す。

支脚（19・20）　径約5.7㎝。欠損するが、19には火痕がみられる。

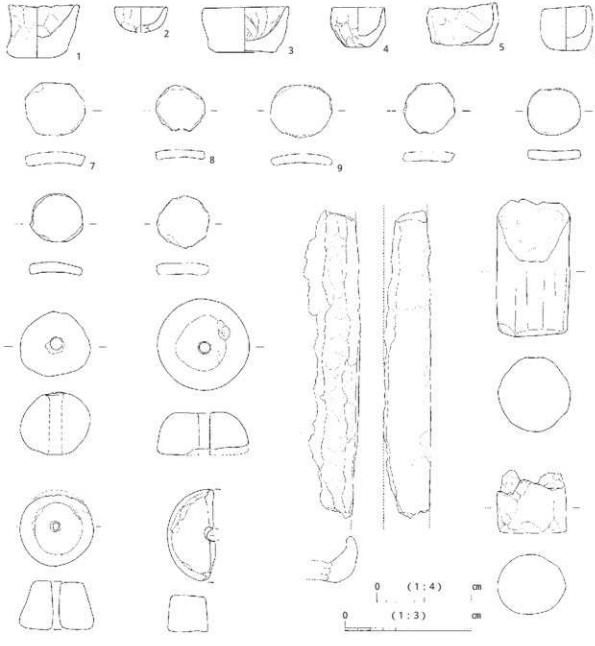


図67　土製品実測図（S＝1：3、18のみS＝1：4）

3　石製品（図68・69）

石斧（1・2）いずれも半分を欠損している。安山岩製で背面を中心に調整がみられる。

砥石（3～12）3～9は置き砥石、10～12は上部に穿孔がみられることから持ち砥石としての機能が考えられる。置き砥石は長さが9㎝～15㎝、幅は3～6㎝程。一面のみの使用の他、5・7では表裏2面の使用がみられる。また5では深さ0.3～0.4㎝の筋状に砥がれている。持ち砥石は全体の残る10で長さ10㎝、幅は3～4.6㎝程。両面使われている様子がみられるが、11では細い筋状の跡がみられる。

支脚（13）長さ10.9㎝、径9.0㎝の円錐状を呈する。石材を割って平にした面を上に向けて据えられていたため、外面から中にかけて同心円状に焼けた跡が明確に残る。

凹石状石臼（14～16）14：長さ22.8㎝、幅16.7㎝。長方形の自然石の中央の径6㎝の窪みが作られている。15・16：径10㎝の小型の河原石を使っている。中央の全体に窪みが作られている。

硯（17）破片の状態で裏面は剥離している。石を削り出して作られている。方形を呈するものと思われ、海部と陸部がみられる。

管玉（18・19）18：長さ2.6㎝、径0.5㎝。19：長さ3.1㎝、径0.7㎝でやや楕円に近い形。いずれも滑石製のものである。

図68　石製品実測図①（S＝1：3）

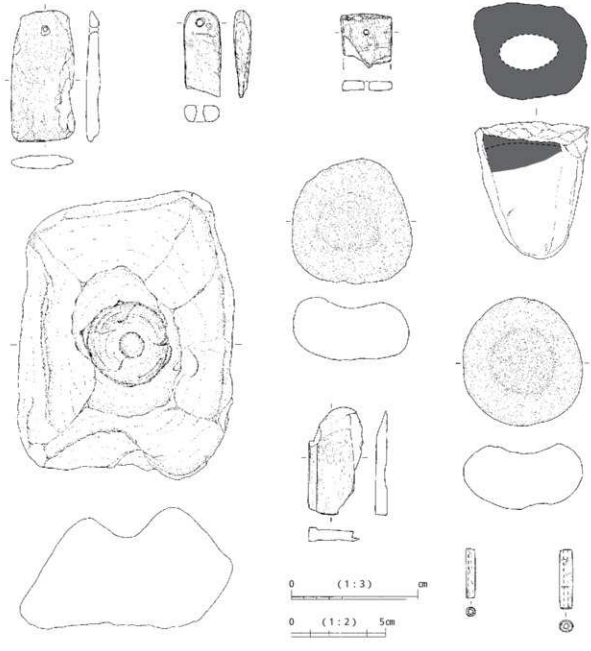


図69　石製品実測図②（10～17：S＝1：3、18・19：S＝1：2）

4　鉄・銅製品（図70～72）

鏃（1・2）1：残存量6.9cm。茎部と刃部の一部が欠損する。平面形態は圭頭式に似た形を呈する。刃部は幅2.0cmで断面は両丸造り。茎部断面は長方形を呈する。2：茎部を欠損するのみで残存量10.0cm。平面形態は柳葉形を呈し、身関部は逆刺となる。刃部幅1.9cmで断面は両丸造り。茎部は丸みのある方形を呈する。

釘（3）残存量約11cm。先端部は曲がり、僅かに欠く。釘頭部は円形の皿を乗せたものと推測される。断面はゆがんだ四角形を呈する。

刀子（4～7）4：残存量9.8cm（刃部5.2cm）刃部・茎部共にほぼ全体が残る。関部は左右がずれた位置にあ

る。5：残存量6.5cm。残りは僅かであるが、断面より関部のない形態とみられる。6：残存量5.5cm（刃部4.8cm）関部は片側のみ明瞭にみられる。7：残存量13.5cm（刃部7.1cm）刃部先端と基部を欠く。関部はほぼ左右対称に造られている。

8：残存量9.2cm上部のみを欠く。棒状で断面は円形を呈する。釘の可能性が考えられる。

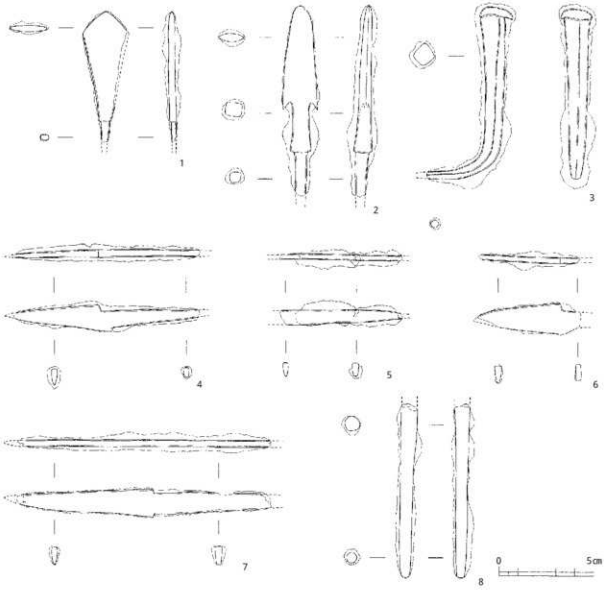


図70　鉄製品実測図（S＝1：2）

青銅製蝶番　縦5.0cm、横4.0cm、完形である。一枚の板を丸めて環状部を造っており、中には心棒が残る。板部は三角形を呈し波状となっている。釘穴は波状の形に合わせて5つが開けられている。また、表になる面の全体には金メッキが施されている。

溝より、1点のみの出土である。

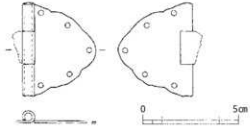


図71　青銅製蝶番実測図（S＝1：2）